履　修　要　項

2026

現代生活学部

食　物　栄　養　学　科

居住空間デザイン学科

帝塚山大学

帝塚山大学の理念および３つのポリシー

大学の理念・教育目的（「帝塚山大学学則」第３条）

本学は、教育基本法並びに学校教育法に基づき、広い国際的視野の上に、日本人としての深い自覚と高い識見を持ち、社会の要請に応え得る教養と創造力を備えた人材を育成するために、これに適する学問を教授研究することを目的とする。

大学院の理念・教育目的（「帝塚山大学大学院学則」第１条）

本大学院は、教育基本法並びに学校教育法に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

帝塚山大学（以下「本学」）は、「広い国際的視野の上に、日本人としての深い自覚と高い識見を持ち、社会の要請に応え得る教養と創造力を備えた人材を育成する」という本学の教育理念にもとづき、Society5.0に向けた人材育成を念頭に、本学の各学位プログラムの課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を充たすとともに、以下の知識・能力・資質等を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与します。そのために、大学全体のアセスメントプラン（アセスメント・ポリシー）を策定します。

1．〈専門的知識と技能〉各分野の専門的知識と技能を修得している。
2．〈知識や技能の活用〉変化する社会状況に応じて、専門的知識や技能を活用することができる。
3．〈主体的な意識と態度〉自らの目標をもち、その実現のために主体的に学ぶことができる。
4．〈多様なコミュニケーション〉文化・社会的背景の異なる多様な人々について理解し、協働することができる。
5．〈社会人としての自立〉社会人としての責任感をもち、社会の一員として適切な行動ができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる知識・能力・資質等を身につけさせるため、以下のような教育内容と教育方法にもとづき、共通教育科目、専門教育科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を実施します。そのために、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、ナンバリングなどを活用し、カリキュラムの体系化を図ります。

〈教育内容〉

1．高校から大学への学生の円滑な移行をめざし、初年次教育を行うとともに、卒業後の進路や生き方について考えさせるためのキャリア教育を行う。また、健康で充実した学生生活を送れるよう、スポーツ関連科目も設ける。
2．専門教育の基礎となる教養と、数理・データサイエンス（「統計・情報」）「科学」「歴史・人文」「社会・文化」および外国語を中心とする「言語リテラシー」の各分野の知識と技能を学ぶ。
3．専門教育については、専門分野の体系性にもとづき、必修科目や選択科目を学年・学期別に配置する。

〈教育方法〉

1．各学年・学期に少人数による演習科目を配置し、その担当教員がアドバイザーとして、学生の学修や生活に対する助言を行う。
2．主体的な学びを促進するために、アクティブ・ラーニングやＩＣＴの活用を広く推進するとともに、地域と連携したプロジェクト型学習を推進する。
3．授業は、原則として対面形式により行うものとし、必要な場合は教育効果を十分に考慮したうえで遠隔形式を活用することができる。

〈学修成果の評価〉

1．学修成果については、アセスメントプラン（アセスメント・ポリシー）にもとづき評価する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学は、教育理念に掲げた人材を育成するために、以下のことを入学者に求めます。

〈求める学生像〉

1．他者との対面状況で自分の意志を伝えることができること。
2．学びたい学部・学科、研究科等の知識や技能を地域や社会で生かしたいという意欲があること。
3．学びたい学部・学科、研究科等が掲げる人材養成目的を理解していること。

〈入学までに修得すべき内容・水準〉

1．高等学校の教育課程を幅広く修得していること。
2．高等学校までの学びや活動などを通じて「思考力」「判断力」「表現力」を身につけていること。
3．高等学校までの学びや活動などに主体性や積極性をもち、多様な人々と協働して取り組んだ経験を有していること。

このような入学者の選抜は、学力検査のほか、小論文、面接、集団討論、調査書などを活用し、志願者の能力や資質を多面的・総合的に評価して実施します。

※３つのポリシーは、より深い理解につながるよう、内容や表現について定期的な見直しを行っています。

帝塚山大学　アセスメントプラン（アセスメント・ポリシー）

帝塚山大学では、学生の学修成果の評価（アセスメント）について、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーに基づき、大学全体(機関レベル)、学部・研究科(教育課程レベル)、科目（授業科目レベル）の各レベルにおいて、以下のとおり定める。

１．大学全体（機関レベル）

学生が志望する進路（就職率、進学率、資格・免許等)、卒業時調査から学修成果の達成状況を検証する。

２．学部・研究科（教育課程レベル）

学部・学科の所定の教育課程における卒業要件達成状況、単位修得状況、GPA、成績分布状況、資格・免許の取得状況等から教育課程全体を通した学修成果の達成状況を検証する。研究科においても、学部・学科に準じて検証する。

３．科目（授業科目レベル）

シラバスで示された授業科目の到達目標に対する評価、授業改善アンケート等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を検証する。

学修成果の評価について、各時点、各レベルにおいて、次にあげるものを主な指標とする。

	入学前および入学直後	在学中	卒業時および卒業後
大学全体 （機関レベル）	・入学試験 ・調査書等の記載内容 ・入学生調査 （満足度・意欲含む）	・退学・除籍率 ・学生生活意識調査 （満足度含む） ・学習行動調査 （学習時間・意欲含む） ・課外活動状況 ・PROG	・就職率 ・進学率 ・（標準修業年限期間内） 卒業率／学位取得状況、 留年率 ・卒業時調査 （満足度・意欲含む） ・卒業後調査
学部・研究科 （教育課程レベル）	・入学試験 ・入学生調査 （満足度・意欲含む） ・面接、志望理由書等	・単位修得状況 ・GPA ・資格検定の合格状況 ・退学・除籍率 ・休学率 ・学生生活意識調査 （満足度含む） ・学習行動調査 （学習時間・意欲含む） ・課外活動状況 ・PROG	・単位修得状況 ・GPA ・資格・免許取得状況 ・卒業時調査 （満足度・意欲含む） ・就職率 ・（標準修業年限期間内） 卒業率／学位取得状況、 留年率
科目 （授業科目レベル）	・入学試験 ・プレイスメントテスト	・成績評価 ・授業改善アンケート	

「研究活動における不正行為」について（注意事項）

学生の皆さんにとって「研究活動における不正行為」という言葉は聞き慣れないかもしれません。ニュースや新聞ではよく目にするけれども、何となく難しい、自分には関係ないといった印象を受けるかもしれません。しかし、この「研究活動における不正行為」は、実は大学生活の中にごく身近に存在しています。

例えば、授業の課題や卒業課題としてレポートや論文の作成を求められた際に、web 上で公開されている他人の研究成果を無断でコピーし貼り付けて、自分の研究成果のように公表してしまうことは不正行為に該当します。この行為は「盗用」と呼ばれる不正行為であり、他人の研究業績を引用する場合は、必ず引用元を正確に明示するというルールがあります。

帝塚山大学では、論文作成上の基本的なルールの習得や研究活動における倫理観を養うことを目的に、研究に関わる全ての者を対象に「研究倫理教育」というものを実施しています。

学生の皆さんは、以下の行為が研究活動における「不正行為」となることを理解し、絶対に行わないよう注意してください。

①**「ねつ造」**・・・存在しないデータや研究結果等を作成する行為
②**「改ざん」**・・・実験データや研究活動によって得られた結果等を自分の都合の良いように変更する行為
③**「盗用」**・・・・他人の研究成果を自分の研究成果のように発表する行為
④**「二重投稿」**・・既発表または投稿中の論文と本質的に同じ論文を投稿する行為
⑤**「不適切なオーサーシップ」**・・・著者ではない者を論文著者として発表する行為

以上

2026年度　学年暦

前期

	日	月	火	水	木	金	土	
4月				1	2	3	4	1　入学式 2〜7　オリエンテーション・ガイダンス・健康診断
	5	6	7	8	9	10	11	8　前期開講 11　新入生歓迎会
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	昭和 29	30			30　全学休講
5月						1	2	1　全学休講 2　学園創立記念日振替休日（5/12）
	憲法 3	みどり 4	こども 5	振替 6	7	8	9	
	10	11	創立 12	13	14	15	16	10　あかね祭 ※12 学園創立記念日（授業実施）
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
6月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30					
7月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	海の日 20	21	22	23	24	25	※20　海の日（授業実施）
	26	27	28	29	*30*	*31*		29　前期終講 7/30〜8/5　前期定期試験
8月							*1*	
	2	*3*	*4*	*5*	6	7	8	
	9	10	山の日 11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	31						
9月			1	2	3	4	5	1〜25　後期オリエンテーション
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	敬老 21	国民 22	秋分 23	24	25	26	25　卒業式（９月卒業生） 26　後期開講
	27	28	29	30				

前期授業回数

月	火	水	木	金	土	
15	15	15	15	15	15	※集中講義は別途実施

祝日に授業を実施する日
　7/20　海の日
学校行事等による休講
　5/2　学園創立記念日（振替休日）

後期

	日	月	火	水	木	金	土	
10月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	スポーツ 12	13	14	15	16	17	※12　スポーツの日（授業実施）
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
11月	1	2	文化 3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	21　全学休講 （11/21・22虹色祭（大学祭））
	22	勤労 23	24	25	26	27	28	※23勤労感謝の日（授業実施）
	29	30						
12月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	23・24　補講日 26　年内講義終了
	27	28	29	30	31			
1月						元日 1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	7　年初講義開始
	10	成人 11	12	13	14	15	16	15・16　全学休講 （16・17　大学入学共通テスト実施）
	17	18	19	20	21	22	23	21・22　補講日 （一般選抜A日程・前期実施）
	24	25	26	27	28	29	*30*	29　後期終講 30〜2/5　後期定期試験
	31							
2月		*1*	*2*	*3*	*4*	*5*	6	
	7	8	9	10	建国 11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	天皇 23	24	25	26	27	
	28							
3月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	春分 21	振替 22	23	24	25	26	27	25　卒業式・修了式
	28	29	30	31				

後期授業回数

月	火	水	木	金	土	
15	15	15	15	15	15	※集中講義は別途実施

祝日に授業を実施する日
　10/12　スポーツの日、11/23　勤労感謝の日
学校行事等による休講
　11/21　大学祭
　1/15・16 大学入学共通テスト準備・試験

目　　次

学修の手引

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー ･･･ 1

【学修について】

1．教育課程（カリキュラム）･･･ 4
2．履修 ･･･ 4
3．単位と単位制 ･･･ 4
4．授業科目の区分 ･･･ 5

【履修登録について】

1．履修登録 ･･･ 6
2．履修登録に際しての注意事項 ･･･ 7
3．履修登録者数５名以下の措置について ･･･ 8
4．履修登録の確認について ･･･ 8
5．履修辞退制度について ･･･ 8

【授業について】

1．授業への出席 ･･･ 9
2．授業時間帯 ･･･ 9
3．休講と補講 ･･･ 9
4．授業教室の変更について ･･･ 9
5．実験実習費 ･･･ 9

【図書館の利用について】 ･･･ 10

【アドバイザー制度・オフィスアワー制度について】

1．アドバイザー制度 ･･･ 10
2．オフィスアワー制度 ･･･ 10

【試験について】

1．定期試験 ･･･ 11
2．追試験 ･･･ 11
3．再試験 ･･･ 12
4．受験心得 ･･･ 12
5．試験における不正行為に対する処分 ･･･ 13
6．レポートの提出 ･･･ 14

【成績について】

1．成績評価 ･･･ 14
2．成績通知表の交付 ･･･ 14
3．学修評価に関する問い合わせ ･･･ 14

【GPA について】

1．GPA について ･･･ 15
2．GPA の目的について ･･･ 16
3．GPA の活用 ･･･ 16

【試験及び学修評価に関する規程】 ･･･ 17

【キャンパススクエア（Web）の活用について】 ･･･ 21

【TALES に関して】 ･･･ 24

【メールアドレスに関して】 ･･･ 25

履修規定

1．卒業所要単位一覧 …… 29
2．履修方法 …… 29
3．カリキュラム表
共通教養科目（教養科目・外国語科目）…… 33
食物栄養学科専門科目（2023・24・25・26年度入学者用）…… 34
居住空間デザイン学科専門科目（2023・24・25・26年度入学者用）…… 41

資格課程

1．教職課程「中学校・高等学校教諭免許、栄養教諭免許」
（食物栄養・居住空間デザイン学科）…… 49
2．栄養士・管理栄養士課程（食物栄養学科）…… 54
3．フードスペシャリスト課程（食物栄養学科）…… 57
4．NR・サプリメントアドバイザー課程（食物栄養学科）…… 58
5．建築士課程（居住空間デザイン学科）…… 59
6．インテリアプランナー課程（居住空間デザイン学科）…… 60
7．商業施設士資格認定課程（居住空間デザイン学科）…… 61
8．司書教諭課程（居住空間デザイン学科）…… 62

全学共通授業科目

1．外国人留学生適用科目 …… 65
2．海外短期語学研修科目 …… 66
3．キャリア形成支援科目 …… 66
4．特別講義・スポーツ関連科目 …… 67

学　修　の　手　引

この冊子には、みなさんが本学で学修していくうえで、必ず知っておかなければならない基本的な事項についての説明または注意事項が記載されています。

授業が始まるまでに、これらのことがらをよく理解しておいてください。

現代生活学部の人材養成目的（「帝塚山大学学則」第４条）

人間社会や文化に対する確かな認識を基盤として、現代に生きる人々が豊かで健全な生活を形成するために必要な技術や知識を追究し、それを社会に提供できる専門的職業人を養成する。

食物栄養学科の人材養成目的（「帝塚山大学学則」第４条）

国民の健康に関する諸問題がますます多様化、複雑化する現代社会において、幅広い教養を基礎とする豊かな人間性と高度な専門知識および技術を以て栄養や健康について提言できる人材を養成する。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

現代生活学部食物栄養学科は、「幅広い教養を基礎とする豊かな人間性と高度な専門知識および技術を以て栄養や健康について提言できる人材を養成する」という教育理念に基づき、本学科の課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を充たすとともに、以下の知識・能力・資質等を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与します。そのために、本学科のアセスメントプラン（アセスメント・ポリシー）を策定します。

1．〈専門的知識と技能〉健康・栄養に関する高度な専門的知識および技能を修得している。
2．〈現状分析と問題解決能力〉変化する現代社会の状況に応じた諸問題に対し、自ら課題を見つけ、科学的根拠に基づく栄養改善策を企画・実践できる。
3．〈主体的な意識と態度〉自らの目標・管理栄養士像をもち、その実現のために主体的に学ぶことができる。
4．〈豊かな人間性とコミュニケーション能力〉国際的視野に立って良識や教養を兼ね備え、文化・社会的背景の異なる多様な人々について理解し、協働することができる。
5．〈社会への寄与〉社会人としての責任感をもち、多職種の人々と協力して豊かで健康的な社会の創造に寄与することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

現代生活学部食物栄養学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる知識・能力・資質等を身につけさせるため、以下のような教育内容と教育方法にもとづき、共通教育科目、専門教育科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を実施します。そのために、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、ナンバリングなどを活用し、カリキュラムの体系化を図ります。

〈教育内容〉

1．入学者が自ら４年間の学修を計画的に考え、実践できるように、管理栄養士の専門科目を学ぶための基礎を形成することをめざし、高等学校教育からの継続性を重視した初年次教育を行う。また、豊かな人間性と教養を養う教育を実施する。
2．初年次から卒業年次に至るまで専門科目を基礎、応用、実践と段階的・系統的に履修することで、順次専門的能力を高め、管理栄養士として必要な知識・技術を修得できる教育を実施する。
3．初年次から管理栄養士として必要な職業観を育むとともに、３・４年次には実践的知識・技術を身につけるために臨地実習（病院、保健所、福祉施設、事業所等）を実施する。
4．管理栄養士国家試験に対応できる学力を修得させるために、３・４年次には習熟度に応じた演習科目を実施する。
5．栄養教諭一種、フードスペシャリスト、NR・サプリメントアドバイザー等の資格取得が可能な教育を実施する。

〈教育方法〉

1．大学生活への適応に配慮して、初年次にアドバイザー制を取り入れた演習科目を配置する。２年次以降もアドバイザー、ゼミ担当教員が、学生の学修や生活に対する助言を行う。
2．主体的な学びを促進するために、導入可能な科目にアクティブ・ラーニングを取り入れ、地域と連携したプロジェクト型学習により実践力の修得を促進する。
3．管理栄養士国家試験に対応できる学力を修得させるために、４年次には習熟度に応じた授業を実施する。

〈学修成果の評価〉

1．学修成果については、アセスメントプラン（アセスメント・ポリシー）にもとづき評価する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

現代生活学部食物栄養学科は、教育理念に掲げた人材を育成するために、大学全体のアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に定める事項のほか、以下のことを入学者に求めます。

〈求める学生像〉

1．管理栄養士にふさわしい実力を身につけるための努力を惜しまず、向上心をもって学修に取り組むこと。
2．食と栄養に関する事柄について興味をもって学修に取り組むこと。
3．健康問題に関心があり、人体、栄養、健康との関連性について深く考察し、社会で生かしたいという意欲があること。
4．温かい人間性とコミュニケーション能力を兼ね備え、感性豊かであること。

〈入学までに修得すべき内容・水準〉

1．管理栄養士として必要な基礎学力を高等学校の教育課程で修得していること。
※入学後の修学に必要な理科（生物基礎・化学基礎程度）の学力を備えていることが望ましい。

居住空間デザイン学科の人材養成目的（「帝塚山大学学則」第４条）

より良い生活空間の創造を目指して、生活者の視点から人間生活に関わる空間とモノに関する諸問題を包括的、体系的に捉えることの出来る人材を養成すると共にデザイン教育を重視し、企画力、創造力、伝達力など、空間づくり・モノづくりに関わる実践的な能力と技術に精通した人材を養成する。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

現代生活学部居住空間デザイン学科は、本学科の課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を充たすとともに、以下の知識・能力・資質等を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与します。そのために、本学科のアセスメントプラン（アセスメント・ポリシー）を策定します。

1．〈豊かな人間性と社会への寄与〉社会人として必要な良識や教養、コミュニケーション能力を持ち、他者と協力して豊かな社会の創造に寄与することができる。
2．〈現状分析と課題解決能力〉現代社会におけるさまざまな問題の中から、課題を的確に見つけ出し、大学で修得した知識・技術を用い、解決に向けて積極的に取り組むことができる。
3．〈専門的知識と技能〉建築・インテリアデザイン、プロダクト・ビジュアルデザインの分野で必要とされる知識と技術を有し、生活者の視点からより良い生活空間の創造と維持に貢献することができる。
4．〈知識や技能の活用〉建築・インテリアデザイン、プロダクト・ビジュアルデザインの分野の学びで得られた分析力と創造力および実践力を持ち、豊かな生活空間の創造や、地域やまちの活性化をめざして提案し活動することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

現代生活学部居住空間デザイン学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる知識・能力・資質等を身につけさせるため、以下のような教育内容と教育方法にもとづき、共通教育科目、専門教育科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を実施します。そのために、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、ナンバリングなどを活用し、カリキュラムの体系化を図ります。

〈教育内容〉

1．高等学校教育からの連続性と大学生活への適応に配慮した基礎教育を行うとともに、豊かな人間性と教養を培うための教養教育を実施する。また、学生が自ら学修計画を立てられるように指導する。
2．実践的な専門知識・技術を習得させるとともに、その過程において社会生活で必要な協調性、コミュニケーション能力を身につけさせる。さらに各自が卒業後にどのような分野で活躍し、いかに社会に貢献できるかを探求させる。
3．１年次では生活や空間に関する知識とデザインの基礎を学ばせ、２年次には建築・インテリアデザイン、プロダクト・ビジュアルデザインの専門的な分野を学ばせる。さらに３年次には各分野における高度な専門的知識・技術を習得させ、４年次には現代の社会が抱える様々な問題と課題を見つけ出させ、３年間で修得したデザインの各分野における様々な知識を用いて主体的に解決する能力を身につけさせる。

〈教育方法〉

1．科目間の関連を明確にして、座学では主に大人数での教育を行い、そこで得た知識を演習・実習で応用させる。
2．演習・実習・卒業研究等では少人数での指導、教育を主体とするが、適時大人数での展示、発表を行い自発的な学修を促す。

〈学修成果の評価〉

1．学修成果については、アセスメントプラン（アセスメント・ポリシー）にもとづき評価する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

現代生活学部居住空間デザイン学科は、教育理念に掲げた人材を育成するために、大学全体のアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に定める事項のほか、以下のことを入学者に求めます。

〈求める学生像〉

1．建築・インテリアデザイン、アートやものづくりに関心が高いこと。
2．美しい建物やアート作品を観察し、美しさを判断する能力を養う意欲があること。
3．観察力、思考力、判断力、表現力、協調性などがあること。

〈入学までに修得すべき内容・水準〉

1．入学後の修学に必要な立体を表現する能力を備えていること。
2．入学後の修学に必要な数学の基礎学力（「数学Ⅰ」程度）を備えていること。

※人材養成目的および３つのポリシーは、より深い理解につながるよう、内容や表現等について定期的な見直しを行っています。

【学修について】

１．教育課程（カリキュラム）

帝塚山大学は、「広い国際的視野の上に、日本人としての深い自覚と高い識見を持ち，社会の要請に応え得る教養と創造力を備えた人材を育成する」（学則第３条）という教育理念を実践するために、各学部・学科でそれぞれの特色を生かした教育活動を展開していますが、現代生活学部の人材養成目的、食物栄養学科及び居住空間デザイン学科の人材養成目的を達成するために、各学科において、授業科目をそれぞれの専攻に係る専門科目と、幅広く深い教養を培う共通教養科目に分類して開設しています。

これらの授業科目を必修科目・選択必修科目・選択科目に分け、各年次に配当し、一週間あたりの授業時間数を決めるなどして編成したものを教育課程（カリキュラム）といいますが、これはカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に基づいています。

カリキュラムに定められた科目を履修して必要な単位数を修得すれば、次の学位が与えられますが、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に定める資質・能力を修得することになります。

・食物栄養学科　学士（栄養）　・居住空間デザイン学科　学士（生活科学）

２．履修

学生が定められた教育課程（カリキュラム）のなかで自分の学修計画を立て、受けようとする授業科目を決めて履修登録し、その講義または演習等に出席することを**履修**といいます。

それぞれの学部には、教育課程（カリキュラム）を系統的に学修できるよう配慮した履修上の規則**（履修規定）**が定められています。

従って、学生が科目を履修する際には、この履修規定に従わなければなりません。

３．単位と単位制

本学の学修は、単位制を採用しています。

⑴　単位制とは、授業科目ごとに一定の基準で定められている単位を修得していく制度です。

⑵　単位とは学修時間を表す名称で、個々の授業科目について所定の時間を履修し、試験その他の方法によって合格と判定されたときにはじめて単位の修得が認定されます。

⑶　単位数の計算の基準

単位の算定は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、各大学において定めるとされています。

本学においては、原則として講義及び演習科目については15時間の授業および30時間の自習をもって１単位とし、実技及び外国語科目については30時間の授業および15時間の自習をもって１単位とし、実験及び実習科目については45時間の授業をもって１単位としています。

１単位を修得するための授業時間と自習（予習・復習）時間は次のとおりです。

講義・演習科目	
授業 15時間	自習 30時間
計45時間　1単位	

実技・演習・外国語・実験・実習科目	
授業 30時間	自習 15時間
計45時間　1単位	

実験・実習（135分）科目	
授業 45時間	自習 0時間
計45時間　1単位	

例えば、講義科目の場合、1単位を修得するために15時間の授業を受講し、30時間の自習を行うことが必要となります。

⑷　各授業科目の単位数

授業の方法・開講期ごとの時間数及び単位数は次のとおりです。

授業の方法	開　講　期	授業時間数	単位数
講　義 演　習	前期又は後期（週1回授業） 前期又は後期（週2回授業） 通　　年（週1回授業）	2時間×15週＝30時間 4時間×15週＝60時間 2時間×30週＝60時間	2 4 4
実技・演習 外国語・実験・実習 実験・実習	前期又は後期（週1回授業） 前期又は後期（週2回授業） 通　　年（週1回授業）	2時間×15週＝30時間 4時間×15週＝60時間 2時間×30週＝60時間	1 2 2
実験・実習 （135分）	前期又は後期（週1回授業）	3時間×15週＝45時間	1

※授業時間数の計算に際し、1授業（90分）は2時間として計算します。

⑸　単位の認定

単位の認定は、試験等の成績によります。試験は、履修した授業科目について学期末または学年末に、筆記、口述、論文（レポート）等によって行います。合格した授業科目に対して所定の単位が認定されます。

4．授業科目の区分

授業科目はその内容により、次のとおりの科目群に分類され、それぞれの科目の授業は講義、演習、実技または実習等の方法によって行われます。

○　教養科目
○　外国語科目
○　専門科目
○　資格科目　教職課程に関する科目、司書教諭課程に関する科目

【履修登録について】

１．履修登録

学修計画を立て授業科目を決め、これを毎学年度の学期始めに所定の方法により登録することを**履修登録**といいます。学務情報システムであるキャンパススクエアを利用し、WEB履修登録を行います。

履修登録にあたっては、履修ガイダンスで説明を受け、履修規定および履修に際しての注意事項を熟読し、登録間違いをしないよう注意してください。

> 履修登録は、学生にとって最も重要な手続きです。登録を怠ったために、その年度の履修ができなくなり、その結果、卒業が延期になるという不幸な事態も起こりかねません。必ず定められた期間内に履修登録を行ってください。

⑴　履修登録の時期について

履修登録は、前期と後期の学期始めに年２回行います。

前期には前期科目と通年科目、後期には後期科目の登録を行います。

ただし、４年次生（過年度生を含む）は就職活動等で必要な「卒業見込証明書」を発行するために、前期履修登録期間中に後期科目を履修登録します。なお、後期科目は後期履修登録時に変更することが可能です。

⑵　予備登録科目の登録について

学習効果を考慮し、１クラスの受講者数に制限を加える必要がある科目については、抽選により受講者を調整しています。これらの科目を予備登録科目といいます。

予備登録科目の履修を希望する場合は、定められた期間に予備登録を行い、抽選の結果、履修が許可された科目について履修登録することができます。

⑶　受講するクラスを指定する科目について

学習効果を考慮し、あらかじめ学籍番号順や抽選によりクラスを指定し人数を制限して授業を行う科目があります。（たとえば、「基礎演習」、「英語」、管理栄養士科目等）

これらの科目の履修は、指定されたクラスの科目のみ履修が許可されますので、注意してください。

⑷　シラバス

授業科目の配当年次や単位数のほかに、授業の内容・目標・方法、予習・復習の指示、成績評価方法・基準、使用するテキスト・参考文献や授業計画などを記載したものをシラバス（Syllabus）といいます。シラバスはWEB上で公開していますので、次の３つの方法のいずれかで見ることができますが、履修登録の際には、シラバスをよく読んでおいてください。

①　WEB履修登録の際に、各曜日時限の科目を登録する画面で「科目名」を押し、シラバス「参照」ボタンを押す。

②　キャンパススクエアのホームメニューにある「シラバス」を押し、シラバス検索画面において、時間割所属で学部を選択し、必要に応じて他の条件も選択して検索する。

③　大学のホームページの最下段右にある「学内向けほか」のリンクから「シラバス」を押し、シラバス検索画面において、時間割所属で学部を選択し、必要に応じて他の条件も選択して検索する。

シラバスの活用について

シラバスは講義の方針や学習計画を学生に周知する目的で作成されており、講義に対して、学生と教員の双方が守る必要のあることが書かれています。次の２つの活用方法が挙げられます。

１つ目は、履修登録の際にどのような授業を受けるかを決める時です。授業時間割表と照らし合わせながら、シラバスに書いてある、「授業概要」「到達目標」「授業方法」「履修および予習・復習についての指示」「授業計画」に目を通し、自分が学びたい授業、学ばねばならない授業の内容について、あらかじめ情報を収集して、履修登録を行うためです。授業を選ぶ際にカリキュラムマップ・ツリーを見ながら「関連する授業科目」についても情報を収集することによって授業体系の中でどの部分を学ぶかを把握することができます。また、履修登録した授業については、テキストの欄を参考にして、指定されている場合は購入しておかなければなりません。

２つ目の活用法は、日々の授業の予習・復習に役立てるというものです。シラバスを活用することによって、今日の授業が全体の位置づけとしてどのようなものか、次回はどのような内容でどの程度の学習準備が必要なのかを確認してください。また、「参考文献」としてあげられているものに目を通してください。

２．履修登録に際しての注意事項

⑴　授業科目の配当年次について

授業科目には、それぞれ履修できる年次が定められています。これを科目の配当年次といい、科目の内容や序列を考慮して定められ、授業の時間割もこれに従って組まれています。履修に際しては、配当年次の学生と、それ以上の年次の学生が、その科目を履修することができます。

⑵　重複履修について

同一時限に開講される科目を２科目以上同時に履修すること（これを重複履修という）は認められません。

⑶　同一科目が複数で開講されている場合について

同じ科目が複数クラス開講されている場合、担当者が異なっていても同時に登録することはできません。

⑷　科目の再履修について

すでに履修して単位を与えられた科目を再び履修することはできません。

⑸　科目の履修条件について

科目によっては、その科目を履修するための条件があるものがあります。（たとえば、特定の科目の既修または同時履修を条件とする科目等）

⑹　年間履修単位数について

１学年度に履修できる上限単位数が決まっています。（詳細は p.30を参照のこと）

⑺　その他

実験・実習・演習科目について、実費を徴収する科目があります。履修ガイダンス時に配付する資料を確認してください。

疑問点などがある時は、教学支援課（現代生活学部・教育学部）（以下「教学支援課」）へ問い合わせて解決すること。

３．履修登録者数５名以下の措置について

履修登録締切日（開講日の前日）段階で履修登録者数が５名以下となった科目は、原則として不開講となります。（ゼミナール等除く）その場合、以後の措置について教学支援課から掲示により指示します。

４．履修登録の確認について

所定の日時に各自の履修登録科目、担当者を記載した履修登録確認表を交付します。自分が登録したとおりの時間割になっているかを確認してください。

５．履修辞退制度について

⑴　履修辞退制度とは

『履修辞退制度』とは、受講者がやむを得ない事由（「授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合」、「受講者自身が授業についていける状況に全くない場合」等）により、履修を辞退することができる制度をいいます。

履修辞退制度の対象は、本学学部生です。本学大学院生、科目等履修生、特別聴講学生及び聴講生等は対象となりません。

⑵　履修辞退した科目の成績評価等について

『履修辞退制度』を適用し、辞退した科目の評価は行われません。したがって、当該科目は成績証明書には記載されません。また、当該科目はGPAの計算対象から除外されます。

なお、当該科目は成績通知表および成績原簿の成績評価欄に「辞退」が記載され、履修履歴及び履修辞退履歴が残ります。

⑶　履修辞退の申出期間および申出方法について

履修辞退については、前期は５月、後期は11月に申出期間を設け、日程を掲示により通知します。期間内に「履修辞退届」（本学指定用紙）を教学支援課に提出しなければなりません。

⑷　履修辞退の対象としない科目は、次のとおりです。

①　必修科目
②　単位互換科目（単位互換協定締結大学の科目）
③　学外で行う実習科目（教育実習、介護等体験、栄養教育実習他）
④　海外短期語学研修受講学生適用科目
⑤　その他、学部が指定した科目（掲示を確認すること）

⑸　年間履修単位数について

履修辞退した科目の単位数は、年間履修単位数から除外されません。

⑹　前期において履修辞退した通年科目の時間割枠のあとに、後期開講科目を履修登録することはできます。なお、後期において通年科目を履修辞退した場合、履修辞退した時間割枠のあとに、後期開講科目を履修登録することはできません。

【授業について】

１．授業への出席

学生は、どの授業にも毎回出席しなければならないことはいうまでもありません。科目によっては、出席回数に厳しい条件がつけられる場合もあります。

出席回数が不足であれば受験資格を失うか、受験しても不合格になりますので、十分注意してください。

なお、病気、ケガ、親族の不幸等により欠席する場合の手続きについては、『学生手帳』の「公認欠席届・欠席届の取扱いについて」のページを参照してください。

２．授業時間帯

本学の授業時間は、１時限が90分間で実施されます。また、135分・180分・270分で実施される実験・実習科目もあります。各時限の授業時間帯は、次のとおりです。

１時限	２時限	昼休み	３時限	４時限	５時限
【90分授業】					
9：00～10：30	10：40～12：10		13：10～14：40	14：50～16：20	16：30～18：00
【135分授業】					
9：30～11：45					
	10：40～12：55				
		12：25～14：40			
			13：10～15：25		
				14：50～17：05	
				15：35～17：50	

※補講の時間帯は、通常の授業時間帯と異なる場合があります。

３．休講と補講

大学の行事または担当教員の都合により、授業が休講になることがあります。授業前にキャンパススクエア（Web）から必ず確認するようにしてください。

始業時刻を45分経過しても授業が開始されず、授業担当者から何の連絡もない場合、授業は休講となります。

なお、休講した時間を補ったり、授業内容を考慮して担当教員が必要と認めた場合は補講を行います。補講を行う場合は、担当教員からの指示およびキャンパススクエア（Web）をもって通知します。

４．授業教室の変更について

教育効果等を考慮して担当教員が必要と認めた場合、教室を変更することがあります。教室を変更する場合は、担当教員からの指示およびキャンパススクエア（Web）をもって通知します。

５．実験実習費

食物栄養学科2024・25・26年度生は33,000円、2023年度生は30,000円を、居住空間デザイン学科は20,000円を６月下旬に学費振替口座より引き落とします。学費振替口座を登録していない場合は納付書を渡しますので、金融機関窓口で振り込んでください。

【図書館の利用について】

【学修について】の「単位数算定の基準」に書いてあるように、大学では自習が必要ですから、図書館を大いに利用してください。図書館では私語が禁止されており、静かで自学・自習しやすい環境が整っています。

図書館が所蔵する資料（図書）の背には、「背ラベル」というラベルが貼ってありますが、その背ラベルの最上段に印刷されている番号が498.5～498.59のものが「栄養学」、520～529が「建築学」の文献・資料です。番号を基にして本の場所を確認しておいてください。「シラバス」の「参考文献」の欄に載っている本は、図書館で借りて読んでください。

図書館というのは単に本を借りるだけではなく、様々な情報を獲得する場所でもあります。例えばゼミのレポートを作成する場合、図書館では関連文献の紹介や情報検索の手助けをしてもらえます。このような図書館のサービスをレファレンス・サービスといいます。気軽にカウンター受付の人に声をかけてください。他にもブルーレイやDVDなどの視聴覚資料を見るためのAVブースもあります。授業の空き時間には、図書館を積極的に利用しましょう。

【アドバイザー制度・オフィスアワー制度について】

１．アドバイザー制度

本学では、学生がより快適な学生生活を送ることができるように、アドバイザー制度を導入しています。これは、学部・学科の専任教員の中から、各学生のアドバイザー担当教員を決定し、履修相談、就職相談および学生生活上の相談に応じる制度です。

主な相談内容は、次のとおりです。

⑴　学習に関すること（履修登録、学習の進め方、学部・学科の専門分野について等）

⑵　学生生活に関すること（学生生活全般、課外活動について等）

⑶　進路に関すること（卒業後の進路、転学部・転学科等の進路変更、休学・退学について等）

２．オフィスアワー制度

オフィスアワーとは、教員が研究室等に待機して、学生からの学習や学生生活全般に関する質問、相談あるいは個人的な指導等を受けるために設けられた時間帯です。各教員が設定したオフィスアワーは、掲示板・各教員の研究室前に掲示されていますので事前に確認して、積極的に活用してください。

【試験について】

１．定期試験

試験は、履修登録した授業科目について、所定の学力を身につけているかどうかを判定するために、学期末（前期末または後期末）に一定の試験期間を設けて筆記・口述・論文等によって行います。

時　限	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
時　間	9：30 ～ 10：30	11：00 ～ 12：00	13：00 ～ 14：00	14：30 ～ 15：30	16：00 ～ 17：00

※定期試験の時間帯は、通常の授業時間帯と異なりますので注意してください。

２．追試験

病気その他やむを得ない理由により、定期試験を受験できなかった者に対して追試験を行います。

追試験願を提出できるのは、以下の事由があり、かつ、それを証明する書類を整えることができる場合に限ります。**本人の不注意による遅刻や時間間違いは、追試験の対象となりません。**追試験願の提出期間は、原則として当該科目の定期試験実施日の翌日から３日間です。（３日目が休日の場合はその翌日まで、翌日も休日の場合はさらに１日期限を延長します。）本人が教学支援課で所定の手続きをしてください。病気などで所定の手続きができない場合は、必ずこの期間内に教学支援課に連絡してください。

また、定期試験を実施していない科目、短期語学研修および単位互換科目等は追試験の対象となりません。

追試験を受験できなかった者に対して、再度、追試験は行いません。また、追試験の得点が59点から40点であっても再試験は行いません。

追試験を受験できなかった場合、その事由が本人の病気のうち、保健所などが指定する感染症の場合、一親等親族の危篤または死亡の場合あるいは交通機関の途絶・延着による場合は追試験料を返還します。

事　　由	証 明 書 類	受 験 料
①本人の病気･負傷又は不慮の事故･災害	医師の診断書（注１） （事故・災害の場合は別途指示）	1,000円 （但し保健所指定の感染症の場合は無料）
②三親等内親族の危篤又は死亡 （一親等７日、二親等５日、三親等２日）	危篤の場合は医師の診断書、死亡の場合は死亡診断書の写(注1)	1,000円 （但し一親等は無料）
③教育実習、介護等体験等学外機関に委託して行う実習	不　要	無　料
④正課のインターンシップにかかる実習	不　要	無　料
⑤就職試験	試験日を証明する書類	無　料
⑥単位互換協定締結大学の定期試験	不　要	1,000円
⑦交通機関の途絶・延着	事故・延着証明書	無　料
⑧その他やむを得ない事由（注２）	届出に対して 教務委員会が判断する	教務委員会が決定する

（注１）診断書は受験できなかった日が確認できることが必要です。
（注２）事前に教学支援課へ申し出ること。例：裁判員制度による裁判員として公的機関からの呼び出しなどの事由。

３．再試験

４年次生（過年度生を含む）の学生に対してのみ、履修して受験し不合格（60点未満）となった科目（演習科目、実技・実習科目、単位互換科目、海外短期語学研修、追試験科目、その他の指定する科目は除外）のうち、評価が40点以上である場合に限って、下表のとおり再試験の受験が認められます。再試験の対象外となる科目については掲示します。再試験受付期間内に、必ず本人が教学支援課に再試験願を提出してください。

学年	受験可能科目数	
４年次生	前期（前期終了科目が対象）	２科目
	後期（後期科目・通年科目のみ対象）	３科目

再試験を受け、その成績により当該科目について合格と判定された場合、当該科目の成績は60点とします。なお、一旦、再試験を受験し不合格となった科目について、再度、再試験は行いません。

再試験については、１科目につき受験料2,000円を徴収します。再試験を保健所などが指定する感染症の場合、一親等親族の危篤又は死亡の場合あるいは交通機関の途絶・延着により受験できなかった場合は、受験料は返還します。

４．受験心得

試験を受ける際には、次の事柄に注意してください。（追・再試験の受験心得も同様です。）

⑴　事前に発表される定期試験時間割表で履修科目の試験の日時と試験室を確認してください。

⑵　試験開始５分前までには、座席表により指定された座席に着席し、監督者の指示に従ってください。監督者の指示に従わない場合は、不正行為と見なす場合があります。

⑶　カード学生証を机の右側または通路側の見やすい場所に置いてください。スマホ学生証は、使用できません。カード学生証を忘れた者は、学生生活課に申し出て「仮学生証」（有料）の交付を受けてください。

⑷　筆記用具（ペンまたは鉛筆と消しゴム）と特に許可されたもの以外の所持品は、すべてバッグなどに入れて中が見えないようにして机の掛具に掛けるか、足元に置いてください。（携帯電話は必ず電源を切り、机の上に置かないでください。）

⑸　試験開始20分経過後の入室は認められません。正当な事由のある場合は、教学支援課へ申し出て追試験の手続きをとってください。

⑹　試験開始後の退出は、原則として認められません。

⑺　答案用紙を提出しないで退出することはできません。

⑻　試験室においては、全て監督者の指示に従ってください。また、試験の厳正な実施を妨げるいかなる行為もしてはなりません。

５．試験における不正行為に対する処分

学期末試験（定められた試験期間に実施される試験をいう。筆記試験のほか、レポート及び作品提出等の方法による試験を含む。以下同じ）において不正行為を行った場合、下記のとおり措置します。（試験を受ける際に、持ち込みが許可された物以外の物を机に置けば、それは「不正行為」になります）

【試験における不正行為に対する懲戒規程より抜粋】

第２条　試験とは、定期試験、追試験及び再試験（筆記試験、レポート及び作品提出等の方法による試験を含む）をいう。

２　試験における不正行為とは、次の各号の一に該当する場合をいう。

⑴　代人受験（依頼した者・受験した者）
⑵　答案交換
⑶　カンニングペーパー廻し
⑷　カンニングペーパーの使用
⑸　当該試験に関する事項の書込み（所持品・電子機器・身体・机・壁等）
⑹　答案を写す（見た者・見せた者）
⑺　言語・動作・電子機器等により連絡する行為（連絡した者・連絡を受けた者）
⑻　使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品の使用
⑼　他人の学生証を利用した受験（貸した者・借りた者）
⑽　偽名又は氏名抹消
⑾　故意による無記名
⑿　故意による答案不提出
⒀　使用が許可された参考書等の貸借（貸した者・借りた者）
⒁　配付された答案用紙以外の答案用紙を用いること。
⒂　答案用紙をすり替え、又はすり替えさせること。
⒃　論文・レポート及び作品等の作成・制作に際し、他人の著作物等やWeb上の情報等から引用・転載・参照したにもかかわらず出典を明示することなく提出すること。
⒄　他人が作成した論文・レポート等を自分が作成したものとして提出すること。
⒅　科目担当者及び監督者等の指示に違反する行為
⒆　その他、懲戒委員会において不正行為と認められた行為

（略）

第６条　当該学生に対して、成績を不合格とする科目は、不正行為を発見された科目及び学部で定める科目とする。追試験及び再試験についても同様の扱いとする。

２　当該学生が試験における不正行為を再び行なった場合は、当該年度の全履修科目を不合格とする。

また、懲戒が行われた旨の告示および不正行為を行った者の学部または研究科、学科、学年を二週間掲示します。

※居住空間デザイン学科の実習授業の成績採点に関係するすべての作品提出は「試験における不正行為に対する懲戒規定」第２条１の「試験」に該当するものとみなします。

６．レポートの提出

試験に代わるレポートの提出に際しては、次のことに注意してください。

⑴　レポートの提出は本学のe-ラーニングシステム「TALES」で受け付けます。提出方法はTALESログイン後に表示される「基本操作説明（学生用）」を参照してください。

⑵　提出受付期間と、提出期限を厳守すること。提出期限（日時）を過ぎたものは、いかなる理由があっても一切受け付けません。

⑶　提出したデータや送信日時は控えをとることをお勧めします。

【成績について】

１．成績評価

⑴　学業成績は、授業科目ごとに行う試験等により評価します。

⑵　本学の成績は、100点法によって評価され、60点以上を合格とし、合格した科目には所定の単位が与えられます（一部の科目については、成績を「合」（合格）、「否」（不合格）で表示することがあります）。

⑶　成績評価は、学生に交付する成績通知表と就職用等で外部に対して発行する成績証明書とで、表示方法が異なります。

評価方法／表示方法	点数評価					合否評価		認定された科目	履修辞退制度により履修辞退した科目
						合格	不合格		
成績通知表	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0	合	否	認定	辞退
成績証明書	S	A	B	C	表示なし	G	表示なし	N	表示なし

２．成績通知表の交付

成績通知表は、毎学年度の毎学期末に交付します。各自必ず受け取り、成績および単位数を確認してください。なお、成績通知表、履修登録確認表は、父母等宛に送付します。

３．学修評価に関する問い合わせ

学生は、自己の学修評価について疑義のある場合は、「学修評価に関する問い合わせ」（本学所定の用紙）を、教学支援課に提出してください。なお、授業担当者に直接問い合わせすることはできません。

問い合わせ期間は、前期科目は前期成績交付日から当該年度の後期履修登録締切日まで、後期科目・通年科目は後期成績交付日から翌年度の前期履修登録締切日までとします。ただし、４年次生（過年度生を含む）で、卒業可能な学期の申出期間は、当該学期の成績交付日から４年次生の追・再試験結果発表日までとします。なお４年次生の追・再試験の評価についての問い合わせは、４年次生の追・再試験結果発表日当日とします。

学修評価に関する問い合わせは、評価の再考を求めるものではありません。問い合わせは、原則として１科目あたり１回とします。

【GPA について】

1．GPA について

本学では、GPA を成績通知表および成績原簿に記載します。

『GPA』とは、Grade Point Average の略で授業科目ごとの５段階の成績評価（Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ・不可（59～０点））に対して、４から０のグレードポイント（GP）を付与して算出する１単位あたりの GP 平均値のことをいいます。

⑴ GPA の対象となる授業科目は、次のとおりです。

① 100点満点として成績評価されるすべての授業科目

② 本学在学中に、他の大学（短期大学を含む。）において学修した成果・履修した授業科目（単位互換科目を含む）であって、①の要件を満たす授業科目

③ 本学入学前に他の大学（短期大学、高等専門学校を含む）において履修した授業科目であって、①の要件を満たす授業科目

⑵ GPA の対象外となる授業科目は、次のとおりです。

① 「合」（合格）あるいは「否」（不合格）で判定する授業科目

② 編入学又は転学部・転学科した際の単位認定科目

③ 本学入学前に修得した単位認定科目（前項③の場合は除く）

④ 卒業要件の対象とならない科目（資格の専門科目）

⑤ 履修辞退制度により履修辞退した科目

⑶ グレードポイント（GP）

	評　価	得　点	グレードポイント（GP）
合　格	S	100～90点	4
	A	89～80点	3
	B	79～70点	2
	C	69～60点	1
	合（G）	合・否で判定する科目	対象外
	認定（N）	単位認定された科目	対象外
不合格	不可	59～０点	0
	否	合・否で判定する科目	対象外
履修辞退制度により履修辞退した科目			対象外

⑷ GPA の計算方法

GPA は、当該学期に履修した GPA の対象となる授業科目について学期 GPA および通算 GPA に区分し、各区分の定める方法により計算するものとし、計算値は小数点以下第３位を四捨五入して表記します。

① 学期 GPA は、当該学期の授業科目ごとに得た GP に当該授業科目の単位数を乗じる計算を、当該学期に成績評価を受けた授業科目分行い、その合計を当該学期に成績評価を受けた授業科目単位数の合計で除して算出します。

② 通算 GPA は、入学時からの現在の学期までの授業科目ごとに得た GP に、当該授業科目の単位数を乗じる計算を、入学時から現在の学期までに成績評価を受けた授業科目分行い、その合計を入学時から現在の学期までに成績評価を受けた授業科目の単位数の合計で除して算出します。

$$GPA = \frac{\text{（科目のグレードポイント×単位数）}}{\text{成績評価を受けた授業科目（GPA の対象となる授業科目）の単位数合計}}$$

《計算例》

Ｓの成績を得た授業科目の単位数	14単位×４ポイント	＝	56
Ａの成績を得た授業科目の単位数	16単位×３ポイント	＝	48
Ｂの成績を得た授業科目の単位数	10単位×２ポイント	＝	20
Ｃの成績を得た授業科目の単位数	6単位×１ポイント	＝	6
不可の成績を得た授業科目の単位数	2単位×０ポイント	＝	0
	48単位		130

GPA ＝ 130／48 ＝2.708... ≒2.71

２．GPA の目的について

GPA は本学で学修した成果を点数で表すことにより、次のことを目的として実施されています。

⑴ 学修の到達度を明確に示すことにより、自分の学修状況を数値でより客観的に把握し、明確な方向性を持って学期の学修計画を立てる。

⑵ 合格科目だけではなく、不合格科目も対象とすることで、自らの履修管理に責任を持ち、履修科目に対して自主的・意欲的に学習をする。

⑶ GPA の高い学生の学習意欲をさらに高め、GPA の低い学生に対してよりきめ細やかな学習指導をする。

⑷ 本学での学修成果を点数で示すことにより、国内他大学はもとより海外留学の際の学力を証明する指標とする。

３．GPA の活用

本学では、「GPA 制度に関する運用規程」に基づき、GPA を成績不振者への指導や警告、退学勧告に用いるとともに、各種制度の選抜にかかる要件とします。

また、成績優秀者には履修上限単位数の緩和等に用いることがあります。

【試験及び学修評価に関する規程】

（制　定　平成12年11月24日）

第１章　総　則

（主旨）

第１条　学則における試験及び学修評価に関する詳細については、この規程の定めるところによる。

第２章　試　験

（試験の種類）

第２条　本規程にいう試験とは、定期試験、追試験及び再試験をいう。

（試験の方法）

第３条　試験は、筆記、口述、論文（レポート）等の方法によって行う。

（定期試験の定義）

第４条　定期試験とは、前期及び後期の各期末又は授業終了後に、時期を定めて行う試験をいう。

（定期試験の時期）

第５条　定期試験は、次の区分に従い、別に定める時期に実施する。

⑴　前期科目は前期末

⑵　後期科目及び通年科目は後期末

２　前項の規定にかかわらず、各学部においては、科目担当が必要と認めたときは、通年科目について、後期末の他、前期末においても定期試験を行うことができる。

３　定期試験実施時間帯については、別に定めるところによる。

（追試験）

第６条　追試験とは、病気その他やむを得ない理由により、定期試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。

２　追試験を受験できるのは、次の場合に限る。

⑴　本人の病気・負傷又は不慮の事故・災害

⑵　三親等内親族の危篤又は死亡（期間は、一親等７日、二親等５日、三親等２日）

⑶　教育実習、介護等体験、博物館実習等学外機関に委託して行う実習

⑷　正課のインターンシップにかかる実習

⑸　就職試験

⑹　単位互換協定締結大学の定期試験

⑺　交通機関の途絶・延着

⑻　その他やむを得ない事由

３　前項第８号の追試験受験の許可は、届出に対して教務委員会が判断する。

４　追試験を受験できなかった者は、再度、受験することはできない。また、追試験の得点が59点から40点であっても再試験は行わない。

（追試験の時期）

第７条　追試験は、別に定める時期に実施する。

（追試験の受験手続）

第８条　追試験を受験しようとする者は、追試験願に、第６条第１項に規定する病気その他やむを得ない理由について証明する医師の診断書、公的証明書等及び別に定める受験料を添えて、所定の部署に提出しなければならない。

２　次の場合は、追試験料を免除する。

⑴　第６条第２項第１号の病気のうち、保健所などが指定する感染症の者

⑵　第６条第２項第２号のうち、一親等親族に係る者

⑶　第６条第２項第３号の者

⑷　第６条第２項第４号の者

⑸　第６条第２項第７号の者

３　第６条第２項第８号の追試験料は、教務委員会が決定する。

４　追試験願の提出期間は、原則として当該科目の定期試験実施日の翌日から３日間とする。ただし、３日目が休日または事務取扱日でない場合はその翌日まで、翌日も休日または事務取扱日でない場合はさらに１日期限を延長する。

５　追試験を受験できなかった者で、受験できなかった理由が、第６条第２項第１号の病気のうち保健所などが指定する感染症の場合、第６条第２項第２号のうち一親等親族に係る者である場合および第６条第２項第７号の場合は、既に納付された追試験料を返還する。

（再試験）

第９条　再試験とは、本規程第16条及び17条に定める学修評価において一旦Ｄ（59点以下。）とされた科目のうち、40点以上であった科目について再度行う試験をいう。

２　前項の規定により、再試験の受験を認められる学生は、４年次生（過年度生を含む。）とする。

３　再試験を受験できる科目数は、次のとおりとする。ただし、再試験を受験し不合格となった科目については、再度、受験することはできない。

前期終了科目について、２科目以内

後期終了科目（通年科目を含む。）について、３科目以内

４　授業科目のうち、演習、実技・実習科目及び各学部・学科が特に指定する授業科目は、再試験を認めないものとする。

（再試験の時期）

第10条　再試験は、別に定める時期に実施する。

（再試験の受験手続）

第11条　再試験を受験しようとする者は、再試験願に、別に定める受験料を添えて、所定の部署に提出しなければならない。

２　前項の再試験願の提出期間は、別に定める。

３　再試験を受験できなかった者で、受験できなかった理由が、第６条第２項第１号の病気のうち保健所などが指定する感染症の場合、第６条第２項第２号のうち一親等親族に係る者である場合および第６条第２項第７号の場合は、既に納付された再試験料を返還する。

（受験の制限）

第12条　試験実施時において次の各号のいずれかに該当する者は、試験を受験することができない。

⑴　所定の学生証を所持していない者

⑵　休学又は停学期間中の者

⑶　延納、分納等の定められた手続を経ず学費の納付を怠っている者

２　前項各号の規定のいずれかにも該当しない者であっても、受験しようとする科目の履修登録を行っていない者は、試験を受験することができない。

３　第１項第１号の規定にかかわらず、必要な場合、当該試験日においてのみ有効な仮学生証を発行し、受験を認めることができる。

（試験監督）

第13条　試験監督は、原則として当該授業科目担当教員が行う。ただし、必要に応じて監督補助者を加えることができる。

２　試験監督者は、試験場において試験を厳正かつ円滑に実施する義務とこれに伴う権限を有する。

３　監督補助者は、試験監督者の指示に基づき担当試験場における試験監督を補助するものとする。

（答案の提出義務）

第14条　学生は、筆記試験を受験した場合、答案を提出しなければならない。

（不正行為に対する処置）

第15条　試験において不正行為を行った者に対する懲戒処分等については、別に定める。

第３章　学修評価

（学修の評価方法）

第16条　各科目担当者は、定期試験（追試験及び再試験を含む。）の成績、出席状況、平常の学修状況、論文（レポート）、平常試験の成績等を基に、学修評価を行う。ただし、これら評価に必要な要件を満たさない者については、評価を受ける権利を放棄したものとみなし、これを行わないことができる。

（評価の区分）

第17条　学修評価は点数（100点満点。）を基に、Ｓ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59点以下）に区分し、Ｓ、Ａ、Ｂ又はＣの評価を得たものを合格、Ｄの評価を得たものを不合格とする。ただし、授業科目の性質により、このような評価を行わず、単に合格又は不合格とすることがある。

２　前項の規定にかかわらず、再試験を受け、その成績により当該科目について合格とされた場合、当該科目の評価はＣ（60点）とする。

（評価の訂正について）

第18条　各科目担当者は、一旦、教学支援課に提出した評価を訂正する場合は、「成績評価訂正届」（本学所定の用紙）を、教学支援課に提出しなければならない。

２　前項の書類の提出期間は、前期科目は前期成績交付日から当該年度の後期履修登録締切日まで、後期科目・通年科目は後期成績交付日から翌年度の前期履修登録締切日までとする。ただし、４年次生（過年度生を含む。）の評価を訂正する場合は、当該学期の４年次生（過年度生を含む。）追・再試験結果発表日までとする。

（学修評価に関する問い合わせ）

第19条　学生は、自己の学修評価について疑義のある場合は、「学修評価に関する問い合わせ」（本学所定の用紙）を、教学支援課に提出することができる。

２　前項の書類の提出期間は、前期科目は前期成績交付日から当該年度の後期履修登録締切日まで、後期科目・通年科目は後期成績交付日から翌年度の前期履修登録締切日までとする。ただし、４年次生（過年度生を含む。）で、卒業可能な学期の提出期間は、当該学期の成績交付日から４年次生（過年度生を含む。）の追・再試験結果発表日までとする。

　なお、４年次生（過年度生を含む。）の追・再試験の評価についての問い合わせは、４年次生（過年度生を含む。）追・再試験結果発表日当日とする。

３　学修評価に関する問い合わせは、評価の再考を求めるものではない。

　問い合わせは、原則として１科目あたり１回とする。

（退学者・除籍者の単位認定）

第20条　本学を退学した者又は除籍となった者については、当該異動の発生した日までの学修成績の評価を行い、合格とされた科目について所定の単位を認定する。

２　前項の規定にかかわらず、学費未納により除籍となった者については、学費納付が完了している期間の履修科目のうち合格した科目についてのみ単位認定を行う。

（GPA）

第21条　第17条の評価の区分を基に、単位あたりの学修評価の平均値を示すGPA（Grade Point Average）を算出し、成績通知表および成績原簿に記載する。

２　前項のGPA制度に関する運用規程は、別に定める。

（改廃）

第22条　この規程の改廃は、教務委員会及び大学協議会の議を経て、学長がこれを行う。

附　　則

１　この規則は、平成13年４月１日から施行する。

２　前項の規定にかかわらず、平成13年度に在籍する者については平成12年度以前に履修しＡの学修評価を受けた科目について、第17条の規定を遡って適用し、その一部をＳ評価に改めるものとする。

附　　則

この規則は、平成15年４月１日から施行する。

附　　則

この規則は、平成17年５月27日改正し、同日施行する。

第５条３に定める定期試験実施時間帯は、次のとおり定める。

１時限　９：30～10：30
２時限　11：00～12：00
３時限　13：00～14：00
４時限　14：30～15：30
５時限　16：00～17：00

附　　則

この規則は、平成20年７月25日改正し、同日施行する。

附　　則

この規則は、平成21年６月26日改正し、同日施行する。

附　　則

１　この規則は、平成22年４月１日改正し、同日施行する。

２　第９条の規定にかかわらず、平成20年度以前に入学した者及び平成22年度以前に入学した編入生の再試験については、なお従前の例による。

附　　則

この規程は、平成22年12月17日改正し、同日施行する。

附　　則

この規程は、平成25年７月26日改正し、同日施行する。

附　　則

この規程は、平成27年４月１日から施行する。

附　　則

この規程は、令和７年４月１日から施行する。

【キャンパススクエア(Web)の活用について】

キャンパススクエアとは、授業や学生生活を目的としたサービスに Web ブラウザを通して学内外を問わずアクセスできるポータルサイトのことです。

機能として、①掲示板　②学生情報　③シラバス　④履修登録　⑤休講・補講・教室変更
⑥成績　⑦定期試験　などがあります。

利用方法については入学時のオリエンテーションで詳しく説明します。

① **掲示板**

必ず毎日確認してください。大事なお知らせがあります。

② **学生情報**

各自の学生情報を参照できます。情報に変更が生じた場合は直ちに教学支援課まで届け出てください。

③ **シラバス**

シラバスを参照することができます。

④ **履修登録**

学外からも履修登録することができます。また履修登録した時間割表を確認することができます。

⑤ **休講・補講・教室変更**

「休講」「補講」「教室変更」は 1 週間分の情報が確認できます。必ず毎日確認してください。
（注）アクセスの時間により、最新の情報が得られない場合があります。

⑥ **成績**

成績照会をすることができます。

⑦ **定期試験**

定期試験時間割発表後、定期試験に関する情報を確認することができます。

※携帯電話からも確認することができます。
https://csweb.tezukayama-u.ac.jp/campusweb/portal.do

【出欠管理】スマートフォンを利用し、授業中に出席を申告することができます。

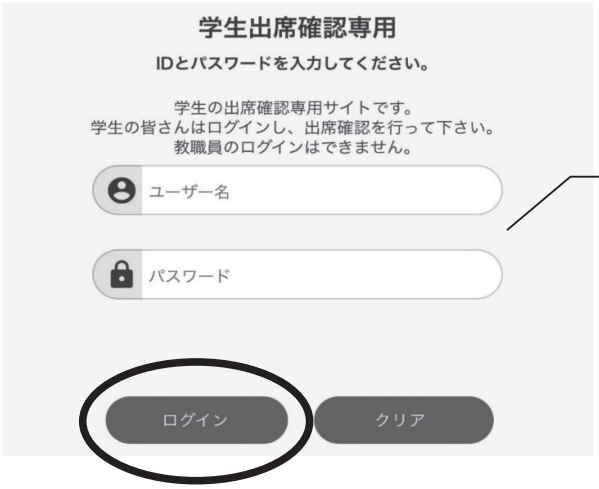
スマートフォン操作説明書

「ブックマーク」から、ログイン画面を表示する。

ブックマークを登録していない人は、左のＱＲコードを読んで接続する。
または、次のＵＲＬを入力して接続。接続後は必ず「ブックマーク」に登録する。

https://attend.tezukayama-u.ac.jp/campusaa/

ここから皆さんがされる手順を説明します。先生の指示に従わずに進んだ場合には、出席とならない場合がありますので、先生の指示に従って進めてください。



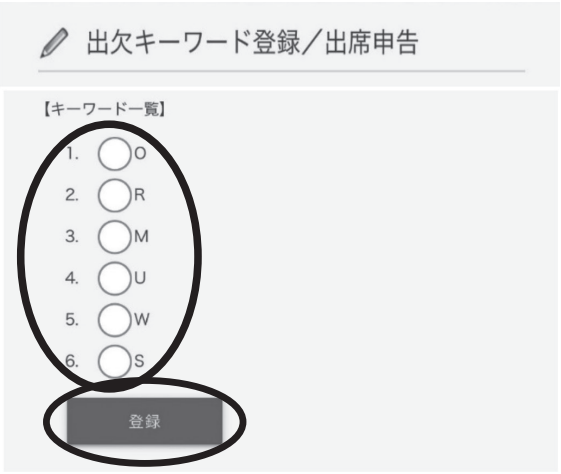
ユーザー名に「学籍番号」、「パスワード」を入力し、「ログイン」をクリックしてください。

出席申告をする授業を確認し、「出席申告」をタッチしてください。
出席申告できる授業のみタッチが可能です。

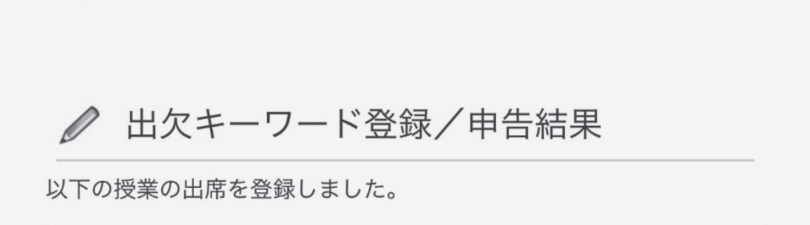
先生名・科目名等を確認し、先生に指示された「キーワード」を選択し、「登録」をタッチしてください。

登録指示があるまではタッチしないこと。

選択できるのは1回だけです。間違えた場合は、先生に申告してください。

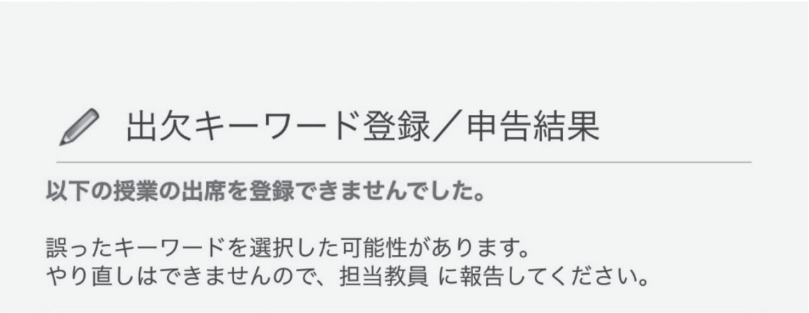


・正しく登録された場合は、以下の画面が表示されます。

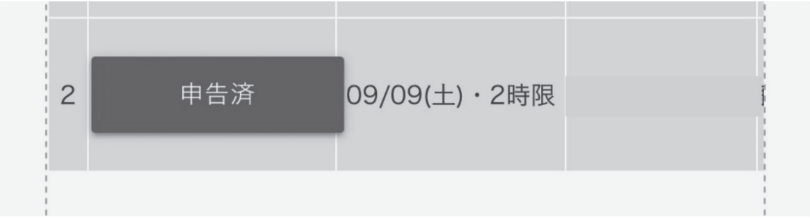


注：登録した時間が、他の学生とあまりにもずれている場合には、出席とならないことがあります。注意してください。

・誤って登録された場合は、以下の画面が表示されます。この画面になった場合は、すぐに先生に申告してください。自分で修正はできません。また、後からの申告は受付けられないことがあります。



・出席申告後、再度ログインした場合は、以下の画面が表示されます。



【TALES に関して】

TALES とは

本学は、TALES（テールズ）という名称の e ラーニング（e-Learning / イーラーニング）システムを利用しています。e ラーニングとは電子化された教材をパソコンやタブレット、スマートフォンを使ってインターネットを利用して学ぶ学習システムのことです。遠隔やリモートと呼ばれる授業形態では TALES を特に多く用います。

TALES にアクセスする際の注意

⑴ TALES 利用方法に関して

ここではTALESへのアクセスとログインの方法のみ紹介していますが、ログイン後に、マニュアルコーナーの「基本操作説明（学生用）」にアクセスし、TALES の使い方を確認して下さい。

⑵ 通信に関して

TALESは、インターネット回線を通じてアクセスします。スマートフォン等のモバイル通信で、動画等の通信量が大きい教材へのアクセスを繰り返すと、契約にもよりますが、通信料金が高額となるおそれがあります。できるだけ Wi-Fi 接続が可能な環境でアクセスするようにして下さい。

⑶ オンライン授業に関して

Microsoft Teams 等を利用したオンライン双方向型授業（※１）に参加する場合は、マイクやカメラ機能が必要になります。ほとんどのスマートフォンやタブレット端末にはこれらの機能が備わっていますが、パソコン（特にデスクトップタイプ）はこれらの機能がないものが多いので注意して下さい。なお、大学のパソコン教室のパソコン（※２）も、カメラ機能はありませんので、情報教育研究センターにて「USB 接続用マイク付き Web カメラ」（※３）を借りて利用して下さい。

※１　双方向型の授業かどうかは担当教員に確認して下さい。

※２　パソコンのスピーカーは使えませんので、各自イヤホン等を持参して下さい。

※３　十分な数量で準備されていますが、数に限りがありますのでご注意下さい。

⑷ 履修登録した授業に関して

TALES にログインすると、画面のダッシュボードというところには皆さんが履修登録した授業に対応したコースが表示されています。これらのコースにアクセスして授業を受講して下さい（授業で TALES を利用するかどうかは、担当教員の指示に従って下さい）。

⑸ ユーザ名とパスワードに関して

TALES にログインする際のユーザ名は学籍番号、パスワードは TUNE のパスワード（大学のパソコン教室でパソコンにログインするときのパスワード）と同じです。

アクセス方法

以下のいずれかの方法でアクセスできます

⑴ パソコン、スマートフォンなどから、以下のアドレスを入力してアクセス。

https://tales.tezukayama-u.ac.jp

⑵ 右記の QR コードを読み取って TALES にアクセス。

⑶ 帝塚山大学のホームページからもアクセス。

① 帝塚山大学ホームページへアクセスします。
② トップページの一番下までスクロールします。
③ 「学内向けほか」の中にある「e-ラーニング TALES」をクリックします。

ログイン方法

(1) 画面右上のログインをクリックし、ユーザ名とパスワード入力します。

(2) ダッシュボードが表示されます。

【メールアドレスに関して】

本学では、Gmail を使用しています。
メールアドレスは、「ユーザー名 @tezukayama-u.ac.jp」です。

設定方法及び使い方

本学では、設定方法や使い方は下記 URL にアクセスして確認して下さい。
https://ictc.tezukayama-u.ac.jp/google/gmail

履　修　規　定

履修計画をたてるには、この項に記載してある事項を理解して履修登録を行い、卒業に必要な単位を修得していくように努めてください。

なお、入学年度により履修規定が異なりますので、自分の入学年度に対応した規定に従うよう注意してください。

1．卒業所要単位一覧

食物栄養学科

共通教養科目	教 養 科 目	12単位	
	外 国 語 科 目	８単位(2023・24年度生)	４単位(2025・26年度生)
専 門 科 目	専門基礎科目	10単位	67単位
	専門基幹科目	40単位	
	専門関連科目	14単位	
	専門研究科目	３単位	
卒業所要単位124単位	共通教養科目と専門科目の必要単位数と、卒業所要単位数124単位との差（食物栄養学科2023・24年度生は37単位、2025・26年度生は41単位）は、どの科目区分から充足してもよい。		

居住空間デザイン学科

共通教養科目	教 養 科 目	12単位	
	外 国 語 科 目	８単位(2023・24年度生)	４単位(2025・26年度生)
専 門 科 目	専門基礎科目	10単位	82単位
	専門基幹科目	48単位	
	専門関連科目	14単位	
	専門研究科目	10単位	
卒業所要単位124単位	共通教養科目と専門科目の必要単位数と、卒業所要単位数124単位との差（居住空間デザイン学科2023・24年度生は22単位、2025・26年度生は26単位）は、どの科目区分から充足してもよい。		

2．履修方法

一．学生は、学則第17条に定める卒業に必要な単位を修得するために、別表に掲げる授業科目について、次の１から３に従って履修し、合計124単位以上を修得しなければならない。

１．共通教養科目（各学科共通）

① 教養科目　　12単位以上

② 外国語科目　　８単位以上（2023・24年度生）　４単位以上（2025・26年度生）

2023・24年度生：①および②の計20単位以上を履修すること。

2025・26年度生：①および②の計16単位以上を履修すること。

２．専門科目

各学科の専門科目の履修方法は次のとおりとする。

⑴ 食物栄養学科（下記の①～④の計67単位以上を履修すること。）

①「専門基礎科目」　　必修４単位を含め10単位以上

②「専門基幹科目」　　40単位以上

③「専門関連科目」　　14単位以上

④「専門研究科目」　　必修３単位を含め３単位以上

⑵　居住空間デザイン学科（下記の①～④の計82単位以上を履修すること。）

①「専門基礎科目」　　必修４単位を含め10単位以上

②「専門基幹科目」　　必修２単位を含め48単位以上

③「専門関連科目」　　14単位以上

④「専門研究科目」　　必修10単位

３．卒業所要単位数124単位と上記１および２に従い修得した最低単位数との差（食物栄養学科2023・24年度生は37単位、2025・26年度生は41単位、居住空間デザイン学科2023・24年度生は22単位、2025・26年度生は26単位）は、どの科目区分から充足してもよい。

４．履修に関するその他の取扱事項

⑴　履修配当年次について

①　各授業科目は、履修することができる年次を示す配当年次が定められているが、原則として配当年次の初年度に履修すること。

②　配当年次より上級年次の学生が下級年次に配当された科目を履修することはできるが、配当年次より下級年次の学生が上級年次に配当された科目を履修することはできない。

⑵　年間履修単位数の制限について

１学年度に履修できる上限単位数は次のとおりとする。

学　科	１～４年	制限外の科目
食物栄養学科	48	教職に関する科目　海外短期語学研修受講学生適用科目 大学が指定する特別科目
居住空間デザイン学科	48	教職に関する科目　司書教諭に関する科目 海外短期語学研修受講学生適用科目　大学が指定する特別科目

⑶　履修を制限する科目について

①　英語以外の外国語科目とゼミナールについてはステップ制をとる。従って、Ⅰの単位を修得しなければⅡを履修することができない。ただし、食物栄養学科のゼミナール再履修者については、ゼミナールⅠとⅡ、または、ゼミナールⅡとⅢの同時履修ができる。

②　ゼミナールの履修について

学　科	選・必	履修条件
食物栄養学科	必修	３年次前期終了時における総修得単位数が52単位未満の者は、３年次後期に「ゼミナールⅠ」を履修することはできない。
居住空間デザイン学科	必修	３年次後期終了時における総修得単位数が80単位未満の者は、４年次前期に「ゼミナールⅠ」を履修することはできない。また、「ゼミナールⅠ」の単位を修得しなければ、４年次後期に「ゼミナールⅡ」を履修することができなくなり、留年が確定する。

③　卒業研究の修得について

学　科	修得条件
食物栄養学科	ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲの３科目
居住空間デザイン学科	ゼミナールⅠ・Ⅱの２科目

④　居住空間デザイン学科の専門科目について、次のとおりとする。

履修を制限する科目	左記の科目を履修するために修得が条件となる科目
空間デザイン実習Ⅰ	製図実習
空間デザイン実習Ⅱ	空間デザイン実習Ⅰ
空間デザイン実習Ⅲ	空間デザイン実習Ⅱ
インテリア・建築デザイン実習Ⅰ	空間デザイン実習Ⅲ　又は、インテリアデザイン実習
インテリア・建築デザイン実習Ⅱ	インテリア・建築デザイン実習Ⅰ
インテリアデザイン実習	空間デザイン実習Ⅱ
建築CAD実習Ⅰ	空間デザイン実習Ⅱ
建築CAD実習Ⅱ	建築CAD実習Ⅰ　及び　空間デザイン実習Ⅲ、又は、インテリアデザイン実習のいずれか
プロダクトデザイン実習Ⅰ	基礎表現実習Ⅰ　及び　基礎表現実習Ⅱ
プロダクトデザイン実習Ⅱ	基礎表現実習Ⅰ　及び　基礎表現実習Ⅱ
プロダクトデザイン実習Ⅲ	基礎表現実習Ⅰ　及び　基礎表現実習Ⅱ
構造力学演習	構造力学
建築実験（2024年度生以前）	構造力学　及び　構法構造設計　及び　建築環境工学

⑷　特別講義の開講について

教育上適切と認める時は、現代生活学部カリキュラム表にない科目を特別講義として、開講することがある。特別講義は、原則として単年度開講とし、配当年次、単位数、算入できる科目群等については、教授会で決定する。

⑸　他学部他学科の授業科目について

①　他学部他学科において開設されている授業科目を２年次生以上は履修することができる場合があるが、それについては別途指示する。

②　上記①により履修し修得した単位は、20単位を上限として前記３の単位数に算入することができる。

⑹　全学共通授業科目について

全学共通授業科目を履修し修得した単位については、次の通り措置する。

①　海外短期語学研修受講学生適用科目の単位は、専門関連科目「海外文化演習」（２単位）として認定する。

②　キャリア形成支援科目の「インターンシップⅠ」(2023年度生)・「体験型就業力開発Ⅰ」(2024年度生以降）及び「インターンシップⅡ」(2023年度生)・「体験型就業力開発Ⅱ」(2024年度生以降）（各２単位）は、それぞれ専門関連科目の単位として認定する。

③　それ以外の科目の単位は、他学部他学科の授業科目と合わせて20単位を上限として、前記３の単位数に算入することができる。

⑺　他の大学における授業科目の履修について

教育上適切と認めるときは、他の大学の授業科目を履修し修得した単位を卒業に必要な単位として算入することができる。算入できる科目群等は教授会において決定する。

他の大学における授業科目の履修には、次のものが該当する。

①　奈良県大学間単位互換協定加盟大学の授業科目

② 放送大学の授業科目

③ 海外協定大学の授業科目

④ その他、教育上適切と認める国内外の大学の授業科目

⑻ 学生（休学者を除く）は、各学期に授業科目を履修登録しなければならない。

二．外国人留学生および編入学生の履修方法については、前記「一」に定めるほか次の規定を適用する。

１．外国人留学生の場合

外国人留学生が、外国人留学生適用科目の単位を修得した場合は、2023・24年度生は16単位、2025・26年度生は12単位を上限として、前記「一」の「１．共通教養科目」の単位数に算入することができる。（p.65［外国人留学生適用科目］参照）

２．編入学生の場合

⑴ 学生が、編入学前に他の大学又は短期大学等において修得した単位（以下、「既修得単位」という。）については、教授会が大学教育の水準に相応しい内容であるか精査した上で認定した単位数を卒業に必要な124単位のなかに算入することができる。

⑵ ３年次編入の場合、算入できる単位数は、既修得単位について学部３年次生の授業科目の中から62単位を限度に個別に認定することができる。

⑶ ２年次編入の場合、算入できる単位数は、既修得単位について学部２年次生の授業科目の中から36単位を限度に個別に認定することができる。

⑷ 学生は、第２号又は第３号により認定された単位数を卒業所要単位数から差し引いた残りの単位数について、これを修得しなければならない。

三．各種資格を取得しようとする者は、前記「一」に規定する科目のほか、別に定めるところにより必要な単位を修得しなければならない。

【放送大学開講科目について】

⑴ 放送大学で開講されている科目を受講して、修得した単位を卒業に必要な単位に算入することができます。

⑵ 受講できる科目や手続き方法については教学支援課で確認してください。

⑶ 受講資格は２年次生以上の学部学生です。

3．カリキュラム表

共通教養科目（学科共通）

区分	卒業必要単位数	科目コード	科目名	配当年次	開講時期形態		単位数		資格免許	学科・担当者(東生駒開講)	学科・担当者(学園前開講)
					前→前期 後→後期	週当り授業回数	必修	選択必修		東生駒開講は1年次以上の科目、学園前開講は2年次以上の科目(学園前開講で○のある科目は1年次以上) 担当者の前のSKCは学科を示す(S・食物、K・居住、C・こども教育)　氏名の後の(　)は開講クラス数を示す	
教養科目	12単位以上	SA01	文化と人間A(日本の文化)	1 2 3 4	前又は後	週1回		2		SK 奥村(晃)(前1)	SKC 奥村(晃)(後1)
		SA02	文化と人間B(世界の文化)	1 2 3 4	後	週1回		2		SKC 嵩原	
		SA03	文化と人間C(文学)	1 2 3 4	後	週1回		2		SK 池田	○C 池田
		SA04	文化と人間D(芸術)	1 2 3 4	前	週1回		2		SK 前木	
		SA05	社会と人間A(経済)	1 2 3 4	前	週1回		2		SKC 磯貝	
		SA06	社会と人間B(教育)	1 2 3 4	前又は後	週1回		2		SK高藤(前1)、C冨田(後1)	SKC 冨田(前1)
		SA07	社会と人間C(法学)	1 2 3 4	後	週1回		2		SKC 加藤	
		SA08	社会と人間D(マスコミ)	1 2 3 4	前又は後	週1回		2		SK 谷口(俊)(後1)	SKC 谷口(俊)(前1)
		SA09	自然と人間A(生命)	1 2 3 4	前又は後	週1回		2		SKC 都留(前1)	SKC 都留(後1)
		SA10	自然と人間B(健康)	1 2 3 4	前又は後	週1回		2		SK 村上(後1)	SKC 村上(前1)
		SA11	自然と人間C(環境)	1 2 3 4	前又は後	週1回		2		SK渡部(前1)、C渡部(後1)	SKC 渡部(後1)
		SA12	自然と人間D(現代科学)	1 2 3 4	前	週1回		2		SK 但馬	SKC 但馬
		SA13	人間論A	1 2 3 4	前	週1回		2		SK 嵩原	
		SA14	人間論B	1 2 3 4	後	週1回		2		SK 嵩原	
		SA15	人権論A	1 2 3 4	前	週1回		2	教職(中・高)： 選択必修科目	SK 森(由)、C 森(由)	
		SA16	人権論B	1 2 3 4	後	週1回		2		SKC 森(由)	
		SA17	情報基礎A	1 2 3 4	前	週1回		2	教職： 1科目必修	SK 佐藤(2)、C 佐藤(2)	SKC 佐藤
		SA18	情報基礎B	1 2 3 4	後	週1回		2		SK 佐藤(2)、C 佐藤	SKC 佐藤
		SA19	健康科学A	1 2 3 4	前	週1回		2	教職： 1科目必修	SK 竹中、C 竹中	
		SA20	健康科学B	1 2 3 4	後	週1回		2		SK 竹中	SKC 竹中
		SA21	日本国憲法	1 2 3 4	前期集中			2	教職		○SK 上出
		SA22	データサイエンス入門	1 2 3 4	前又は後	週1回		2		SKC 鈴木(紀)(前3・後2)	
外国語科目	8単位以上(2024年度生以前) 4単位以上(2025・26年度生)	SB21	英語A	1 2 3 4	前	週1回		1	教職	S　山路(2) K　山路(2) C　三村、安川	SKC　三村
		SB22	英語B	1 2 3 4	前	週1回		1	教職	S　片渕(2) K　有本(2) C　三村、安川	SKC　小谷
		SB23	英語C	1 2 3 4	後	週1回		1		S　山路(2) K　山路(2) C　奥村(玲)、小谷	SKC　門口
		SB24	英語D	1 2 3 4	後	週1回		1		S　片渕(2) K　有本(2) C　三村(2)	SKC　松浦(芳)
		SB25	英語E	2 3 4	前	週1回		1			SK 門口 C　三村、杉原
		SB26	英語F	2 3 4	前	週1回		1			SK 松浦(芳) C　門口(2)
		SB27	英語G	2 3 4	後	週1回		1			SK 杉原 C　奥村(玲)、松浦(芳)
		SB28	英語H	2 3 4	後	週1回		1			SK 奥村(玲) C　門口(2)
		SB05	フランス語Ⅰ	1 2 3 4	前又は後	週2回		2		SKC 脇・藤本(前1・後1)	SKC 藤本(前1)
		SB06	フランス語Ⅱ	1 2 3 4	後	週2回		2		SKC 脇・藤本	SKC 藤本
		SB09	中国語Ⅰ	1 2 3 4	前又は後	週2回		2		SKC 大西・樋口(前1)、 SKC 大西・康(後2)	SKC 大西・樋口(前1)
		SB10	中国語Ⅱ	1 2 3 4	後	週2回		2		SKC 大西・康	SKC 大西・樋口
		SB13	ハングルⅠ	1 2 3 4	前又は後	週2回		2		SKC 黄・林(前1・後1)、 SKC 林・厳(前1)	SKC 黄・周(前1)
		SB14	ハングルⅡ	1 2 3 4	後	週2回		2		SKC 黄・林	SKC 黄・周
		SB17	スペイン語Ⅰ	1 2 3 4	前又は後	週2回		2		SKC ソナン・寺本 (前1・後1)	SKC 寺本・ソナン(前1)
		SB18	スペイン語Ⅱ	1 2 3 4	後	週2回		2		SKC ソナン	SKC 寺本・ソナン

食物栄養学科専門科目（2023・24・25・26年度入学者用）＊…管理栄養士　○…栄養士　☆…フードスペシャリスト　△…栄養教諭

区分	卒業必要単位数	科目コード	科目名	配当年次	開講時期形態		単位数		資格免許	担当者 氏名の後の（ ）は、開講クラス数を示す
					前→前期 後→後期	週当り授業回数	必修	選択必修		
専門基礎科目	必修4単位を含め10単位以上	SG01	基礎演習Ⅰ	１２３４	前	週１回	1			藤原・大西、新宅・辻、西田・杉山、中、渡邊(英)、伊藤(知)
		SG02	基礎演習Ⅱ	１２３４	後	週１回	1			藤原・大西、新宅・辻、西田・杉山、中、渡邊(英)、伊藤(知)
		SG03	現代生活論	１２３４	前	週１回	2			リレー：岩橋・新宅・渡邊(英)・辻
		SG07	日本語表現法	１２３４	前 又は 後	週１回		2		植田(前1)、大西(後1)
		SG09	基礎化学	１２３４	前	週１回		2		槌間(2)
		SG08	基礎生物	１２３４	前	週１回		2		村上(2)
		SG24	情報処理	１２３４	前	週１回		2		木村(弘)
		SG12	基礎実験	１２３４	前	週１回 (135分)		1		中、勝圓(2)
		SG06	文化環境論	１２３４	後	週１回		2		渡辺
		SG05	生活環境論	１２３４	後	週１回		2		阿野
		SG04	消費生活論	１２３４	後	週１回		2		小柴
		SH01	食文化論	１２３４	前	週１回		2		豊原
専門基幹科目	40単位以上	SS04	生化学	２３４	前	週１回		2	＊　○	中(2)
		SS75	基礎栄養学Ⅰ	１２３４	後	週１回		2	＊　○　☆	中(2)
		SS45	基礎栄養学実験	２３４	前	週１回 (135分)		1	＊　○	中、中川(2)
		SS77	応用栄養学Ⅰ	１２３４	後	週１回		2	＊　○	渡邊(英)(2)
		SS78	応用栄養学Ⅱ	２３４	前	週１回		2	＊　○	角谷(2)
		SS79	応用栄養学Ⅲ	２３４	後	週１回		2	＊　○	渡邊(英)(2)
		SS80	応用栄養学実習	３４	前	週１回 (135分)		1	＊　○	渡邊(英)(2)
		SS05	生化学実験	２３４	後	週１回 (135分)		1	＊　○	中、仁木、老沼
		SR01	解剖生理学Ⅰ	１２３４	前	週１回		2	＊　○	久保(2)
		SR02	解剖生理学Ⅱ	１２３４	後	週１回		2	＊　○	久保(2)
		SS09	解剖生理学実験	２３４	前	週１回 (135分)		1	＊　○	リレー：西田・出口(2)
		SH84	運動生理学	２３４	前	週１回		2	＊	浜田(2)
		SS50	運動生理学実験	２３４	後	週１回 (135分)		1	＊	浜田(2)
		SR03	臨床医学概論Ⅰ	２３４	前	週１回		2	＊　○	西田(2)
		SR04	臨床医学概論Ⅱ	２３４	後	週１回		2	＊	西田(2)
		SR05	臨床医学概論Ⅲ	３４	後	週１回		2	＊	西田(2)
		SS11	食品学総論	１２３４	前	週１回		2	＊　○　☆	藤村(2)
		SS12	食品学各論	１２３４	後	週１回		2	＊　○　☆	藤村(2)
		SS13	食品学実験Ⅰ	１２３４	後	週１回 (135分)		1	＊　○　☆	藤村、土江(2)
		SS14	食品学実験Ⅱ	２３４	前	週１回 (135分)		1	＊　　☆	藤村、三浦、土江
		SS17	食品衛生学	２３４	前	週１回		2	＊　○　☆	藤原(2)
		SS91	食品衛生学実験	２３４	後	週１回 (135分)		1	＊　○	藤原(2)、勝圓
		SS92	微生物学	１２３４	後	週１回		2	＊	藤原(2)
		SS65	微生物学実験	２３４	前	週１回 (135分)		1	＊	藤原、勝圓、阿野
		SS93	調理学	１２３４	前	週１回		2	＊　○　☆	伊藤(知)(2)
		SR06	調理学実習Ⅰ	１２３４	後	週１回 (135分)		1	＊　○　☆	伊藤(知)、長尾(2)
		SR07	調理学実習Ⅱ	２３４	前	週１回 (135分)		1	＊　○　☆	伊藤(知)、長尾(2)
		SS94	食品加工学実習	２３４	後	週１回 (135分)		1	＊　　☆	伊藤(知)、豊原
		SS53	栄養教育論Ⅰ	２３４	後	週１回		2	＊　○	新宅(2)
		SS54	栄養教育論Ⅱ	３４	前	週１回		2	＊　○	新宅
		SR09	栄養教育論Ⅲ	３４	後	週１回		2	＊	新宅
		SS55	栄養教育論実習Ⅰ	３４	前	週１回 (135分)		1	＊　○	新宅、須田
		SS81	臨床栄養学Ⅰ	２３４	前	週１回		2	＊　○	阿部(2)
		SS82	臨床栄養学Ⅱ	２３４	後	週１回		2	＊　○	リレー：辻・木戸(2)
		SS83	臨床栄養学Ⅲ	２３４	後	週１回		2	＊	熊本
		SH18	食事介助論	３４	後	週１回		2	＊	阿部
		SR10	臨床栄養学実習Ⅰ	２３４	後	週１回 (135分)		1	＊　○	辻(2)
		SR11	臨床栄養学実習Ⅱ	３４	前	週１回 (135分)		1	＊	阿部(2)
		SR12	臨床栄養学実習Ⅲ	３４	後	週１回 (135分)		1	＊	笠舞(2)
		SR13	公衆栄養学Ⅰ	３４	前	週１回		2	＊　○	岩橋(2)
		SR14	公衆栄養学Ⅱ	３４	後	週１回		2	＊	岩橋
		SS61	公衆栄養学実習	３４	後	週１回 (135分)		1	＊　○	岩橋(2)
		SS62	給食経営管理論Ⅰ	２３４	前	週１回		2	＊　○	佐伯
		SS63	給食経営管理論Ⅱ	２３４	後	週１回		2	＊　○	佐伯(2)

区分	卒業必要単位数	科目コード	科目名	配当年次	開講時期形態		単位数		資格免許	担当者 氏名の後の( )は、開講クラス数を示す
					前→前期 後→後期	週当り授業回数	必修	選択必修		
専門基幹科目	(40単位以上)	SS95	給食経営管理実習	3 4	前 又は 後	週1回 (270分)		2	＊ ○	佐伯・東(前1・後1)
		SS73	公衆衛生学Ⅰ	2 3 4	前	週1回		2	＊ ○	杉山(2)
		SS74	公衆衛生学Ⅱ	2 3 4	後	週1回		2	＊ ○	杉山(2)
		SR15	公衆衛生学Ⅲ	3 4	前	週1回		2	＊	杉山(2)
		SS68	管理栄養士総合演習Ⅰ	3 4	[1]通年集中 [2]後期	[1]通年曜日指定 [2]週1回		1	＊	リレー：佐伯・岩橋・阿部(2)
					前	週1回				リレー：佐伯・岩橋・辻 (再・23年度生)
		SS69	管理栄養士総合演習Ⅱ	4	通年集中	通年曜日指定		1	＊	リレー：佐伯・岩橋・阿部・辻・伊藤(知)・藤原・大西・渡邊(英)、佐伯・岩橋・阿部・辻・新宅・藤村・西田・中・杉山
		SS86	臨地実習Ⅰ(給食の運営)	3 4	通年集中			1	＊ ○	佐伯
		SS87	臨地実習Ⅱ(臨床栄養学ⅰ)	3 4	通年集中			2	＊	阿部・辻
		SS88	臨地実習Ⅲ(臨床栄養学ⅱ)	3 4	通年集中			1	＊ この中から1単位	阿部・辻
		SS89	臨地実習Ⅳ(公衆栄養学)	3 4	通年集中			1	＊	岩橋
		SS90	臨地実習Ⅴ(給食経営管理論)	3 4	通年集中			1	＊	(本年度不開講)
専門関連科目	14単位以上	SI09	調理学実習Ⅲ	3 4	前	週1回 (135分)		1		喜多野
		SH06	フードマーケティング論	3 4	後	週1回		2	☆	藤村
		SH07	フードスペシャリスト論	3 4	後	週1回		2	☆	土江
		SS41	フードプロセス論	3 4	前	週1回		2	☆	藤村
		SH98	フードコーディネート論	3 4	前	週1回		2	☆	小野
		SI10	食品マネジメント演習	3 4	通年集中			2		伊藤(知)・藤村
		SH63	発達心理学	1 2 3 4	前	週1回		2		岡村
		SI19	学校栄養教育論Ⅰ	2 3 4	前期集中			2	△	リレー：新宅・玉井
		SI20	学校栄養教育論Ⅱ	2 3 4	後期集中			2	△	玉井
		SS56	栄養教育論実習Ⅱ	3 4	後	週1回 (135分)		1		新宅
		SH21	家庭看護	2 3 4	後	週1回		2		尾ノ井
		SI11	実践スポーツ栄養学	2 3 4	後	週1回		2		木村(祐)
		SI12	健康スポーツ演習	3 4	後	週1回		2		リレー：岩橋・眺野
		SH45	家族福祉論	3 4	後	週1回		2		潮谷
		SI06	地域文化論	1 2 3 4	後	週1回		2		渡辺
		SH25	生活経営学	1 2 3 4	後	週1回		2		横山
		SH91	奈良学研究	2 3 4	後	週1回		2		風呂井
		SI13	食環境論	3 4	前	週1回		2		橋本
		SI14	サプリメントアドバイザー特別演習	3 4	前	週1回		2		リレー：辻・久岡
		SH59	食物栄養特別演習Ⅰ	3 4	後	週2回		2		リレー：伊藤(知)・藤原・藤村・西田・佐伯・中・杉山・村上
					前	週2回				リレー：伊藤(知)・藤原・藤村・西田・中・杉山(再・23年度生)
		SH60	食物栄養特別演習Ⅱ	4	通年集中	前期曜日指定		2		リレー：新宅・佐伯・阿部・渡邊(英)・辻・杉山
		SH87	食物栄養特別演習Ⅲ	4	後	週2回		2		リレー：伊藤(知)・藤原・新宅・藤村・西田・佐伯・中・阿部・渡邊(英)・辻・杉山
		ZI01	インターンシップⅠ	4	前 又は 後	週1回		2		キャリア支援科目担当者 (2023年度生)
		ZI04	体験型就業力開発Ⅰ	2 3 4	前 又は 後	週1回		2		キャリア支援科目担当者 (2024年度生以降)
		ZI02	インターンシップⅡ	4	前	週1回		2		キャリア支援科目担当者 (2023年度生)
		ZI05	体験型就業力開発Ⅱ	3 4	前	週1回		2		キャリア支援科目担当者 (2024年度生以降)
		SH35	海外文化演習	1 2 3 4	通年集中			2		語学研修担当教員
専門研究科目	必修3単位を含め3単位以上	SR16	ゼミナールⅠ	3 4	後	週1回	1			藤原、伊藤(知)、新宅、藤村、西田、岩橋、佐伯、中、阿部、渡邊(英)、辻、杉山
				4	前期集中					藤原、伊藤(知)、新宅、藤村、西田、岩橋、佐伯、中、阿部、渡邊(英)、辻、杉山 (再・23年度生以降)
		SR17	ゼミナールⅡ	4	前期集中		1			藤原、伊藤(知)、新宅、藤村、西田、岩橋、佐伯、中、阿部、渡邊(英)、辻
				4	後期集中					(本年度不開講) (再・23年度生以降)
		SR18	ゼミナールⅢ	4	後期集中		1			藤原、伊藤(知)、新宅、藤村、西田、岩橋、佐伯、中、阿部、渡邊(英)、辻
				4	前期集中					(本年度不開講) (再・23年度生以降)
		SS44	卒業研究	4	通年集中			8 (選択)		藤原、伊藤(知)、新宅、藤村、西田、岩橋、佐伯、中、阿部、渡邊(英)、辻

食物栄養学科ナンバリング（2023年度生以降）

S	1	1	1	A
①学科	②授業レベル	③学問分野・領域	④科目	⑤枝番号

①学科　この科目が配当されている学科を表します。
法学科【G】、日本文化学科【N】、文化創造学科【F】、経済経営学科【E】、経済学科【e】、経営学科【B】、心理学科【P】、食物栄養学科【S】、居住空間デザイン学科【K】、こども教育学科【C】、こども学科【T】、全学教育開発センター【Z】

②授業レベル　この数字が小さい科目から履修することで、より学修しやすくなります。
【1】入門、【2】基礎（教養）、【3】専門（基礎）、【4】専門（応用）、【0】その他

③学問分野・領域　【1】社会・環境と健康、【2】人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、【3】食べ物と健康、【4】基礎栄養学、【5】応用栄養学、【6】栄養教育論、【7】臨床栄養学、【8】公衆栄養学、【9】給食経営管理論、【0】管理栄養士総合演習・臨地実習・食物栄養特別演習・ゼミナール・その他

④科目名・科目群　カリキュラムの早期のものから順に番号が振られています。

⑤枝番号　同じナンバリングが生じた場合、枝番号【B～Z】を振り、区別します。
ただし、順番にこだわらず、並列と考えます。

科目名	科目ナンバリング
基礎演習Ⅰ	S201A
基礎演習Ⅱ	S201B
現代生活論	S201C
日本語表現法	S201D
基礎化学	S201E
基礎生物	S201F
情報処理	S201G
基礎実験	S201H
文化環境論	S201I
生活環境論	S201J
消費生活論	S201K
食文化論	S201L
公衆衛生学Ⅰ	S312A
公衆衛生学Ⅱ	S312B
公衆衛生学Ⅲ	S313A
生化学	S322A
生化学実験	S322B
解剖生理学Ⅰ	S321A
解剖生理学Ⅱ	S321B
解剖生理学実験	S322C
運動生理学	S322D
運動生理学実験	S322E
臨床医学概論Ⅰ	S322F
臨床医学概論Ⅱ	S322G
臨床医学概論Ⅲ	S323A
微生物学	S322H
微生物学実験	S322I
食品学総論	S331A
食品学各論	S331B
食品学実験Ⅰ	S331C
食品学実験Ⅱ	S332A
食品衛生学	S332B
食品衛生学実験	S333A
調理学	S332C
調理学実習Ⅰ	S331D
調理学実習Ⅱ	S332D
調理学実習Ⅲ（2019年度以前）	S332E
食品加工学実習	S332G
基礎栄養学Ⅰ	S341A
基礎栄養学実験	S342A
応用栄養学Ⅰ	S351A
応用栄養学Ⅱ	S352A
応用栄養学Ⅲ	S352B
応用栄養学実習	S353A
栄養教育論Ⅰ	S362A
栄養教育論Ⅱ	S363A
栄養教育論Ⅲ	S363B
栄養教育論実習Ⅰ	S363C
臨床栄養学Ⅰ	S372A
臨床栄養学Ⅱ	S372B
臨床栄養学Ⅲ	S372C

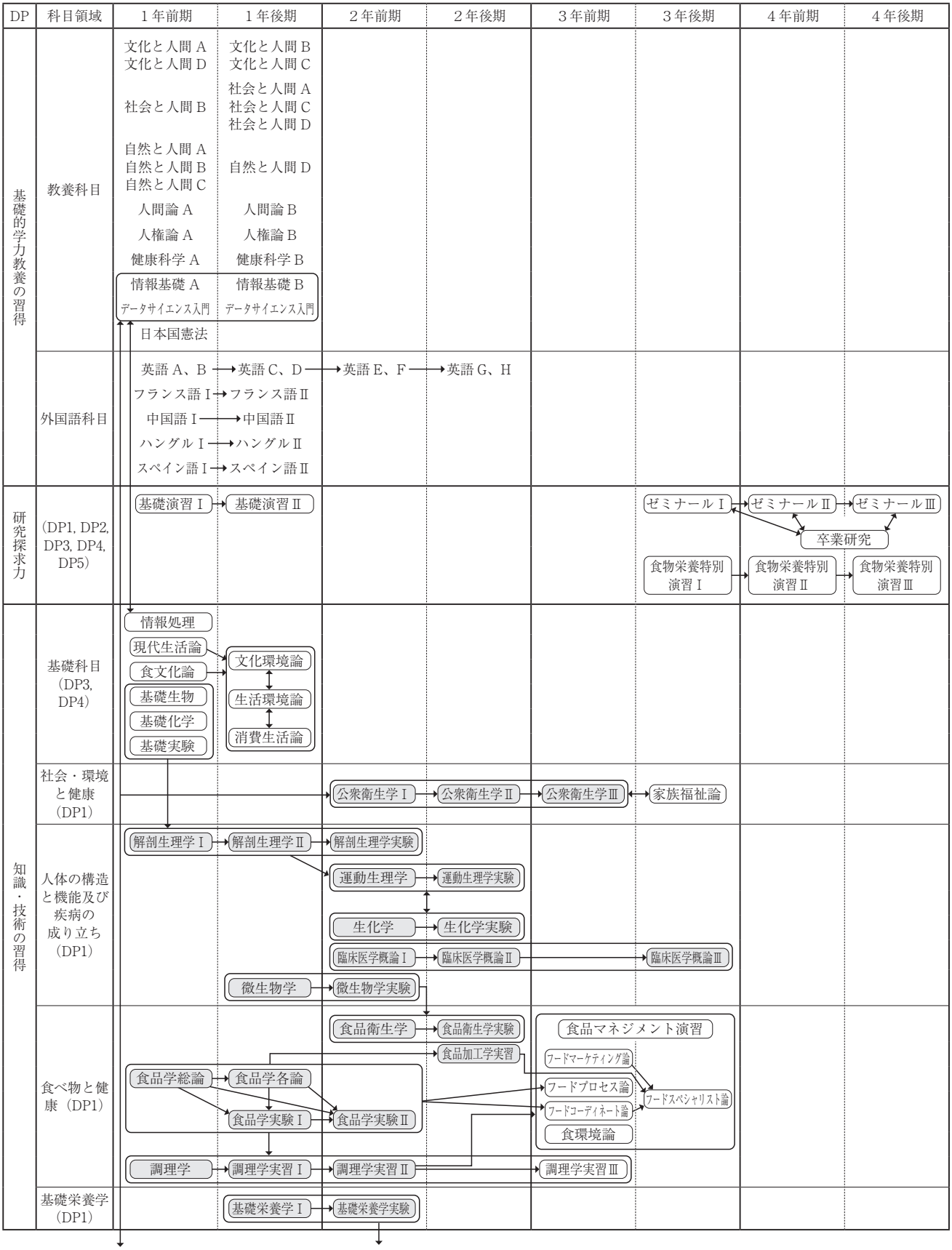
科目名	科目ナンバリング
食事介助論	S373A
臨床栄養学実習Ⅰ	S372D
臨床栄養学実習Ⅱ	S373B
臨床栄養学実習Ⅲ	S373C
サプリメントアドバイザー特別演習	S373D
公衆栄養学Ⅰ	S383A
公衆栄養学Ⅱ	S383B
公衆栄養学実習	S383C
給食経営管理論Ⅰ	S392A
給食経営管理論Ⅱ	S392B
給食経営管理実習	S393A
管理栄養士総合演習Ⅰ	S303A
管理栄養士総合演習Ⅱ	S304A
管理栄養士総合演習Ⅰ再	S304Z
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	S303B
臨地実習Ⅱ（臨床栄養学ⅰ）	S304B
臨地実習Ⅲ（臨床栄養学ⅱ）	S304C
臨地実習Ⅳ（公衆栄養学）	S304D
臨地実習Ⅴ（給食経営管理論）	S304E
食品加工学	S432A
食品加工学実習（2019年度以前）	S433A
フードマーケティング論	S433B
フードスペシャリスト論	S433C
フードプロセス論	S433D
フードコーディネート論	S433E
調理学実習Ⅲ	S433F
食品マネジメント演習	S433G
地域文化論	S411A
生活経営学	S411B
奈良学研究	S412A
家族福祉論	S413A
食環境論	S413B
発達心理学	S421A
家庭看護	S422A
実践スポーツ栄養学	S452A
健康スポーツ演習	S453A
学校栄養教育論Ⅰ	S462A
学校栄養教育論Ⅱ	S462B
栄養教育論実習Ⅱ	S463A
食物栄養特別演習Ⅰ	S403A
食物栄養特別演習Ⅱ	S404A
食物栄養特別演習Ⅲ	S404B
食物栄養特別演習Ⅰ再	S404Z
体験型就業力開発Ⅰ	S002A
体験型就業力開発Ⅱ	S003A
海外文化演習	S001A
ゼミナールⅠ	S403B
ゼミナールⅡ	S404C
ゼミナールⅢ	S404D
卒業研究	S404E

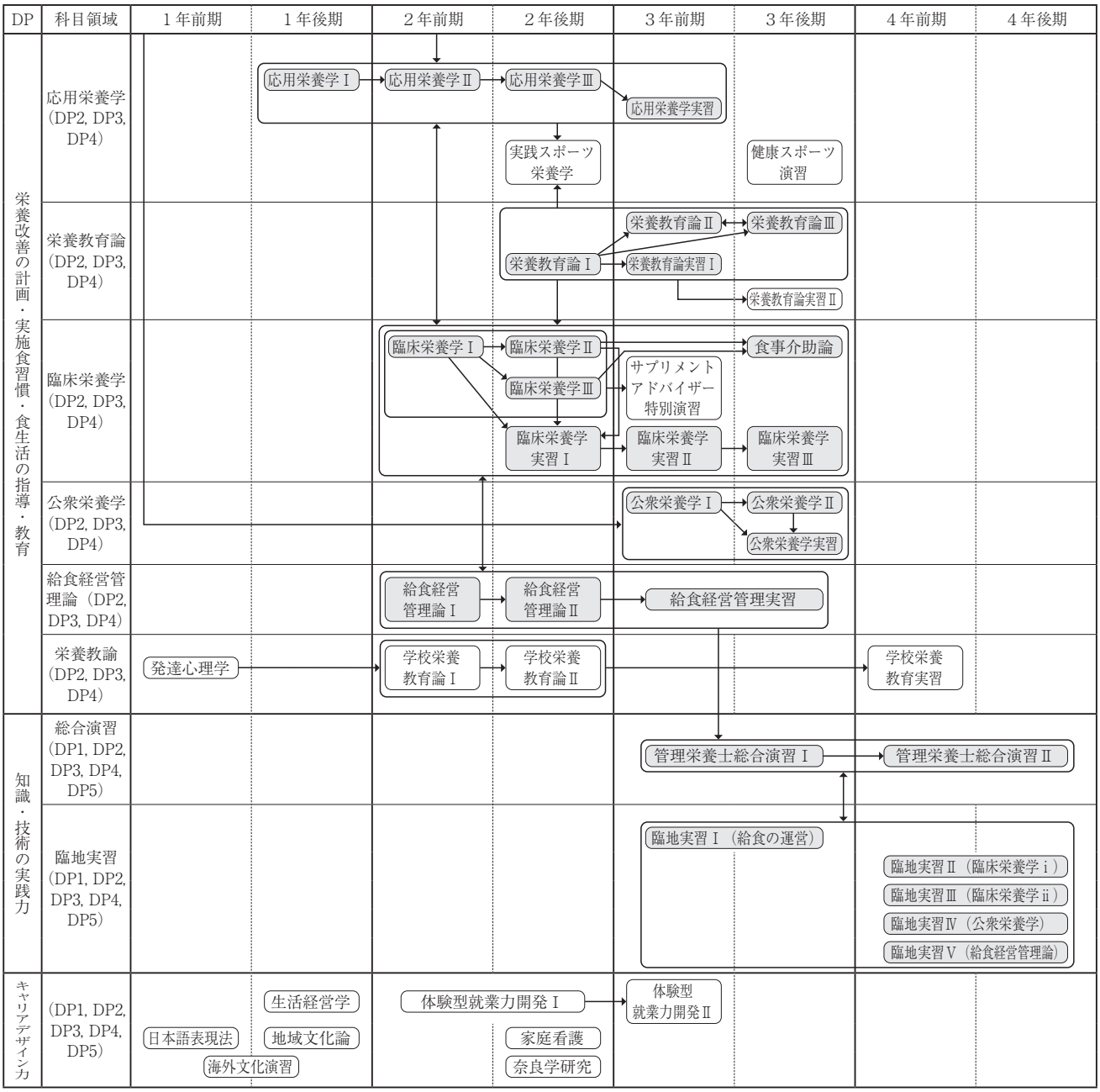
食物栄養学科カリキュラム・マップ（2023年度生以降）

授業科目	ディプロマ・ポリシー				
	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
	専門的知識と技能	現状分析と問題解決能力	主体的な意識と態度	豊かな人間性とコミュニケーション能力	社会への寄与
基礎演習Ⅰ		○	◎	◎	
基礎演習Ⅱ		○	◎	◎	
現代生活論	◎	◎	○	○	
日本語表現法	◎				
基礎化学	◎				
基礎生物	◎				
情報処理	◎				
基礎実験	◎	○	○	○	
文化環境論	◎				
生活環境論	◎				
消費生活論	◎				
食文化論	◎				
公衆衛生学Ⅰ	◎	◎			
公衆衛生学Ⅱ	◎	◎			
公衆衛生学Ⅲ	◎	◎			
生化学	◎				
生化学実験	◎	○	○	○	
解剖生理学Ⅰ	◎				
解剖生理学Ⅱ	◎				
解剖生理学実験	◎	○	○		
運動生理学	◎	○			
運動生理学実験	◎	○	○	○	
臨床医学概論Ⅰ	◎	○			
臨床医学概論Ⅱ	◎	○			
臨床医学概論Ⅲ	◎	◎	○	○	
微生物学	◎	○			
微生物学実験	◎	○		○	
食品学総論	◎	○			
食品学各論	◎	○			
食品学実験Ⅰ	◎	○			
食品学実験Ⅱ	◎	○			
食品衛生学	◎	○			
食品衛生学実験	◎	○		○	
調理学	◎	○			
調理学実習Ⅰ	◎	○		○	
調理学実習Ⅱ	◎	○		○	
調理学実習Ⅲ（2019年度以前）	◎	○			
食品加工学実習	◎	○			
基礎栄養学Ⅰ	◎	○			
基礎栄養学実験	◎	○	○	○	
応用栄養学Ⅰ	◎	○			
応用栄養学Ⅱ	◎	○			
応用栄養学Ⅲ	◎	○			
応用栄養学実習	◎	◎		○	
栄養教育論Ⅰ	◎	○			
栄養教育論Ⅱ	◎	○			
栄養教育論Ⅲ	◎	○			
栄養教育論実習Ⅰ	◎	○	○	○	
臨床栄養学Ⅰ	◎	◎	○		
臨床栄養学Ⅱ	◎	◎	○		
臨床栄養学Ⅲ	◎	◎	○		
食事介助論	◎	◎	◎	○	◎

授業科目	ディプロマ・ポリシー				
	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
	専門的知識と技能	現状分析と問題解決能力	主体的な意識と態度	豊かな人間性とコミュニケーション能力	社会への寄与
臨床栄養学実習Ⅰ	◎	◎	◎	○	◎
臨床栄養学実習Ⅱ	◎	◎	◎	◎	◎
臨床栄養学実習Ⅲ	◎	◎	◎	◎	◎
サプリメントアドバイザー特別演習	◎	◎			○
公衆栄養学Ⅰ	◎	◎			
公衆栄養学Ⅱ	◎	◎			
公衆栄養学実習	◎	◎			
給食経営管理論Ⅰ	◎	◎			
給食経営管理論Ⅱ	◎	◎			
給食経営管理実習	○	◎	◎	◎	○
管理栄養士総合演習Ⅰ	◎	◎	◎	◎	○
管理栄養士総合演習Ⅱ	◎	◎	◎	◎	◎
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	◎	◎	◎	◎	◎
臨地実習Ⅱ（臨床栄養学ⅰ）	◎	◎	◎	◎	◎
臨地実習Ⅲ（臨床栄養学ⅱ）	◎	◎	◎	◎	◎
臨地実習Ⅳ（公衆栄養学）	○	◎	◎	◎	○
臨地実習Ⅴ（給食経営管理論）	◎	◎	◎	◎	◎
食品加工学	◎	○			
食品加工学実習（2019年度以前）	◎	○			
フードマーケティング論	◎	○			
フードスペシャリスト論	◎	◎			
フードプロセス論	◎	○			
フードコーディネート論	◎	○			
調理学実習Ⅲ	◎	◎		○	
食品マネジメント演習	◎	◎			
地域文化論	◎				
生活経営学	◎				
奈良学研究	◎				
家族福祉論	◎				
食環境論	◎				
発達心理学	◎				
家庭看護	◎				
実践スポーツ栄養学	◎	◎	◎	◎	
健康スポーツ演習	◎	○	○	○	
学校栄養教育論Ⅰ	◎	◎	◎	○	○
学校栄養教育論Ⅱ	◎	◎	◎	○	○
栄養教育論実習Ⅱ	◎	○	○	○	
食物栄養特別演習Ⅰ	◎				
食物栄養特別演習Ⅱ	◎				
食物栄養特別演習Ⅲ	◎				
体験型就業力開発Ⅰ		○	◎	○	◎
体験型就業力開発Ⅱ		○	◎	○	◎
海外文化演習		○		○	
ゼミナールⅠ	○	◎	○	○	○
ゼミナールⅡ	○	◎	○	○	○
ゼミナールⅢ	○	◎	○	○	○
卒業研究	◎	◎	◎	◎	◎

食物栄養学科カリキュラム・ツリー（2025・2026年度生）





ディプロマ・ポリシー（DP）

①健康・栄養に関する高度な専門的知識および技能を習得している。…専門知識と技能

②変化する現代社会の状況に応じた諸問題に対し、自ら課題を見つけ、科学的根拠に基づく栄養改善策を企画・実践できる。…現状分析と問題解決能力

③自らの目標・管理栄養士像をもち、その実現のために主体的に学ぶことができる…主体的な意識と態度

④国際的視野に立って良識や教養を兼ね備え、文化・社会的背景の異なる多様な人々について理解し、協働することができる。…豊かな人間性とコミュニケーション能力

⑤社会人としての責任感をもち、多職種の人々と協力して豊かで健康的な社会の創造に寄与することができる。…社会への寄与

（　　）…管理栄養士必修科目

居住空間デザイン学科専門科目（2023・24・25・26年度入学者用）

①～⑩…建築士、△…教職

区分	卒業必要単位数	科目コード	科目名	配当年次	開講時期形態		単位数		資格免許	担当者 氏名の後の( )は、開講クラス数を示す
					前→前期 後→後期	週当り授業回数	必修	選択必修		
専門基礎科目	必修4単位を含め10単位以上	SG13	基礎演習Ⅰ	1 2 3 4	前	週1回	1			辻川、間瀬、矢部、大里、木村(均)、深谷、竹山
		SG14	基礎演習Ⅱ	1 2 3 4	後	週1回	1			辻川、間瀬、矢部、大里、木村(均)、深谷、竹山
		SG03	現代生活論	1 2 3 4	前	週1回	2		△	リレー：北澤・吉住・泊里
		SG04	消費生活論	1 2 3 4	後	週1回		2	(△)	小柴
		SG05	生活環境論	1 2 3 4	後	週1回		2		阿野
		SG06	文化環境論	1 2 3 4	後	週1回		2		渡辺
		SG15	デッサン	1 2 3 4	前期集中	30回		2		関根・黒木・増山
		SG16	芸術論	1 2 3 4	後	週1回		2		前木
		SG17	西洋美術史	1 2 3 4	前	週1回		2		後藤
		SG29	基礎数学	1 2 3 4	後	週1回		2		益田
		SG27	デジタルデザイン基礎	1 2 3 4	後期集中			2	(△) 23以前高校のみ	大里・関根・上田
		SG28	データ処理と解析	2 3 4	前	週1回		2	△ 23以前高校のみ	間瀬
専門基幹科目	必修2単位を含め48単位以上	SD35	住宅計画	1 2 3 4	前	週1回	2		＊ ② △	竹山
		SD63	図と表現	1 2 3 4	前	週1回		2	⑩	深谷
		SD65	製図実習	1 2 3 4	前	週2回		2	＊ ① △ 23以前高校のみ	矢部・間瀬・木村(均)・北澤
		SD37	空間デザイン実習Ⅰ	1 2 3 4	後	週2回		2	＊ ①	竹山・矢部・青山・円満字・北・門脇
		SD38	空間デザイン実習Ⅱ	2 3 4	前	週2回		2	＊ ①	辻川・北澤・山田・長澤・井田
		SD39	空間デザイン実習Ⅲ	2 3 4	後	週2回		2	＊ ①	北澤・植村・門間
		SI21	インテリア・建築デザイン実習Ⅰ	3 4	前	週2回		2	①	竹山・矢部・小松
		SI22	インテリア・建築デザイン実習Ⅱ	3 4	後	週2回		2	①	北澤・今村・田所
		SD41	インテリアデザイン実習	2 3 4	後	週2回		2	⑩	矢部・奥野
		SD42	建築CAD実習Ⅰ	3 4	前	週2回		2	①	辻川・吉住・竹山、吉住・北本
		SD43	建築CAD実習Ⅱ	3 4	後	週2回		2	①	辻川・吉住、辻川・竹山
		SD50	建築計画	1 2 3 4	後	週1回		2	＊ ②	竹山
		SD46	インテリア計画	2 3 4	前	週1回		2	② (△)	矢部
		SD44	商業空間デザイン	3 4	前	週1回		2	②	矢部
		SD47	住文化史	1 2 3 4	後	週1回		2	＊ ② (△)	北澤
		SD67	建築史A	2 3 4	前	週1回		2	＊ ②	岩波
		SD68	建築史B	2 3 4	後	週1回		2	②	岩波
		SD79	ユニバーサルデザイン	2 3 4	後	週1回		2	⑩	北本
		SD80	建築環境工学	2 3 4	後	週1回		2	＊ ③	木村(均)
		SD52	建築設備	3 4	前	週1回		2	＊ ④	木村(均)
		SD53	構造力学	2 3 4	前	週1回		2	＊ ⑤	間瀬
		SD81	構造力学演習	2 3 4	後	週1回		2	＊ ⑤	間瀬
		SD55	建築一般構造	1 2 3 4	前	週1回		2	＊ ⑥ △	間瀬
		SD17	構法構造設計	2 3 4	後	週1回		2	⑥	山口
		SD18	建築材料	2 3 4	前	週1回		2	＊ ⑦	間瀬
		SD82	建築施工	2 3 4	後	週1回		2	＊ ⑧	木村(均)
		SD20	建築法規	2 3 4	後	週1回		2	＊ ⑨	木村(均)
		SD34	デザイン概論	1 2 3 4	前	週1回		2	⑩	泊里
		SD83	人間工学	2 3 4	前	週1回		2	⑩	北本
		SK12	家具デザイン	2 3 4	後	週1回		2		泊里
		SD59	近代デザイン史	2 3 4	後	週1回		2	⑩	片山
		SK20	色彩学	2 3 4	後	週1回		2	⑩	泊里
		SD56	環境デザイン	3 4	前	週1回		2	⑩	辻川
		SD58	環境心理	3 4	後	週1回		2	⑩	辻川
		SD69	基礎表現実習Ⅰ	1 2 3 4	前	週2回		2	⑩	大里・黒木、泊里・安井
		SD70	基礎表現実習Ⅱ	1 2 3 4	後	週2回		2		深谷・藤木、泊里・安井
		SI23	マテリアル実習	2 3 4	前期集中	30回		2		泊里・金谷
		SD72	プロダクトデザイン	2 3 4	前	週1回		2		深谷
		SD31	プロダクトデザイン実習Ⅰ	2 3 4	後	週2回		2		深谷
		SD32	プロダクトデザイン実習Ⅱ	3 4	前	週2回		2		深谷
		SD74	プロダクトデザイン実習Ⅲ	3 4	後	週2回		2		泊里・戸田
		SD75	ビジュアルコミュニケーション	2 3 4	前	週1回		2		大里
		SI24	グラフィックデザイン実習	2 3 4	後	週2回		2		関根
		SI25	ビジュアルデザイン実習A	3 4	前	週2回		2		大里
		SI26	ビジュアルデザイン実習B	3 4	後	週2回		2		大里

区分	卒業必要単位数	科目コード	科目名	配当年次	開講時期形態		単位数		資格免許	担当者 氏名の後の( )は、開講クラス数を示す
					前→前期 後→後期	週当り授業回数	必修	選択必修		
専門関連科目	14単位以上	SH91	奈良学研究	２３４	後	週１回		2		風呂井
		SI17	デジタルデザイン演習	２３４	前	週１回		2		大里
		SI18	WEB デザイン実習	２３４	後期集中	30回		2		松下
		SI03	3D デザイン実習	３４	後期集中	30回		2		深谷
		SI04	デザインマーケティング	３４	後	週１回		2		大里
		SH97	住宅設備機器	２３４	前	週１回		2	④ △（高校のみ）	木村(均)
		SH96	光環境計画	３４	前	週１回		2	③	木村(均)
		SI07	建築実験	３４	後	週２回		2	⑩	リレー：間瀬・木村(均)・吉住
		SI27	空間 AI 基礎	２３４	後	週１回		2		吉住
		SI28	空間データサイエンス演習	３４	前	週１回		2		吉住
		SI29	デジタル測量	３４	後期集中			2		吉住
		SH63	発達心理学	２３４	前	週１回		2		岡村
		SH45	家族福祉論	３４	後	週１回		2	△	潮谷
		SH01	食文化論	１２３４	前	週１回		2		豊原
		SH21	家庭看護	２３４	後	週１回		2	△（高校のみ）	尾ノ井
		SH25	生活経営学	１２３４	後	週１回		2	△	横山
		SH26	被服学	１２３４	後期集中			2	△	伊豆田
		SH27	被服構成実習Ⅰ	１２３４	後	週１回（135分）		1	△	谷口(昌)
		SH28	被服構成実習Ⅱ	２３４	前	週１回（135分）		1	△	谷口(昌)
		SH48	食物学	１２３４	後	週１回		2	△	三浦
		SH49	調理実習Ⅰ	１２３４	前	週１回（135分）		1	△	長尾
		SH50	調理実習Ⅱ	１２３４	後	週１回（135分）		1	△	長尾
		SH30	保育学	１２３４	後期集中			2	△	橋詰
		SI30	国際教育学	３４	後	週１回		2	△	高藤
		ZI01	インターンシップⅠ	4	前 又は 後	週１回		2		キャリア支援科目担当者（2023年度生）
		ZI04	体験型就業力開発Ⅰ	２３４	前 又は 後	週１回		2		キャリア支援科目担当者（2024年度生以降）
		ZI02	インターンシップⅡ	4	前	週１回		2		キャリア支援科目担当者（2023年度生）
		ZI05	体験型就業力開発Ⅱ	３４	前	週１回		2		キャリア支援科目担当者（2024年度生以降）
		SI08	特別講義(企業研究)	2	後	週１回		2		間瀬
		SI16	特別講義(プロジェクト演習)	２３４	通年集中			2		北澤
		SH35	海外文化演習	１２３４	通年集中			2		語学研修担当教員
専門研究科目	必修10単位	SK42	ゼミナールⅠ	4	前期集中		1			辻川、北澤、間瀬、矢部、大里、木村(均)、深谷、吉住、泊里、竹山
		SK43	ゼミナールⅡ	4	後期集中		1			辻川、北澤、間瀬、矢部、大里、木村(均)、深谷、吉住、泊里、竹山
		SK44	卒業研究	4	通年集中		8			辻川、北澤、間瀬、矢部、大里、木村(均)、深谷、吉住、泊里、竹山

建築士受験資格は下表を参照し、資格免許欄の＊印を付した科目を中心に履修すること。

指定科目分類	一級建築士要件単位数		
①建築設計製図	7単位		
②建築計画	7単位		
③建築環境工学	2単位		
④建築設備	2単位		
⑤構造力学	4単位		
⑥建築一般構造	3単位		
⑦建築材料	2単位		
⑧建築生産	2単位		
⑨建築法規	1単位		
①～⑨の計(a)	30単位		
⑩その他(b)	適宜		
(a)＋(b)	60単位	50単位	40単位
必要な実務経験年数（試験時）	0年		
必要な実務経験年数（登録時）	2年	3年	4年

指定科目分類	二級建築士要件単位数		
①建築設計製図	3単位		
②建築計画	2単位		
③建築環境工学			
④建築設備			
⑤構造力学	3単位		
⑥建築一般構造			
⑦建築材料			
⑧建築生産	1単位		
⑨建築法規	1単位		
①～⑨の計(a)	10単位		
⑩その他(b)	適宜		
(a)＋(b)	40単位	30単位	20単位
必要な実務経験年数（試験時）	0年		
必要な実務経験年数（登録時）	0年	1年	2年

居住空間デザイン学科ナンバリング（2023年度生以降）

K	1	1	1	A
①学科	②授業レベル	③学問分野・領域	④科目	⑤枝番号

①学科　この科目が配当されている学科を表します。
法学科【G】、日本文化学科【N】、文化創造学科【F】、経済経営学科【E】、経済学科【e】、経営学科【B】、心理学科【P】、食物栄養学科【S】、居住空間デザイン学科【K】、こども教育学科【C】、こども学科【T】、全学教育開発センター【Z】、現代生活学部・教育学部、共通開講科目【z(小文字)】、教職課程（中高）・司書教諭科目【X】

②授業レベル　この数字が小さい科目から履修することで、より学修しやすくなります。
【1】入門、【2】基礎（教養）、【3】専門（基礎）、【4】専門（応用）、【0】その他

③学問分野・領域　【1】デザイン総合、【2】建築学（計画・史・法）、【3】建築設計、【4】環境設備工学、【5】建築総合、【6】プロダクトデザイン、【7】ビジュアルデザイン、【8】生活学、【0】その他

④科目名・科目群　カリキュラムの早期のものから順に番号が振られています。

⑤枝番号　同じナンバリングが生じた場合、枝番号【B～Z】を振り、区別します。
ただし、順番にこだわらず、並列と考えます。

科目名	科目ナンバリング
基礎演習Ⅰ	K211A
基礎演習Ⅱ	K212A
西洋美術史	K211B
現代生活論	K211C
芸術論	K211D
消費生活論	K211E
生活環境論	K211F
文化環境論	K211G
データ処理と解析	K211H
奈良学研究	K211Ⅰ
デッサン	K311A
基礎数学	K311B
建築一般構造	K311C
製図実習	K311D
図と表現	K311E
デザイン概論	K311F
基礎表現実習Ⅰ	K311G
基礎表現実習Ⅱ	K312G
マテリアル実習	K311H
人間工学	K311Ⅰ
ユニバーサルデザイン	K311J
色彩学	K311K
デザインマーケティング	K311L
住宅計画	K321A
建築計画	K321B
住文化史	K321C
建築法規	K321D
建築史A	K321E
建築史B	K321F
近代デザイン史	K321G
インテリア計画	K321H
商業空間デザイン	K321Ⅰ
環境デザイン	K321J
環境心理	K321K
空間デザイン実習Ⅰ	K331A
空間デザイン実習Ⅱ	K332A
空間デザイン実習Ⅲ	K333A
インテリア・建築デザイン実習Ⅰ	K334A
インテリア・建築デザイン実習Ⅱ	K331B
インテリアデザイン実習	K331C
建築CAD実習Ⅰ	K331D
建築CAD実習Ⅱ	K332D
建築環境工学	K341A
建築設備	K341B

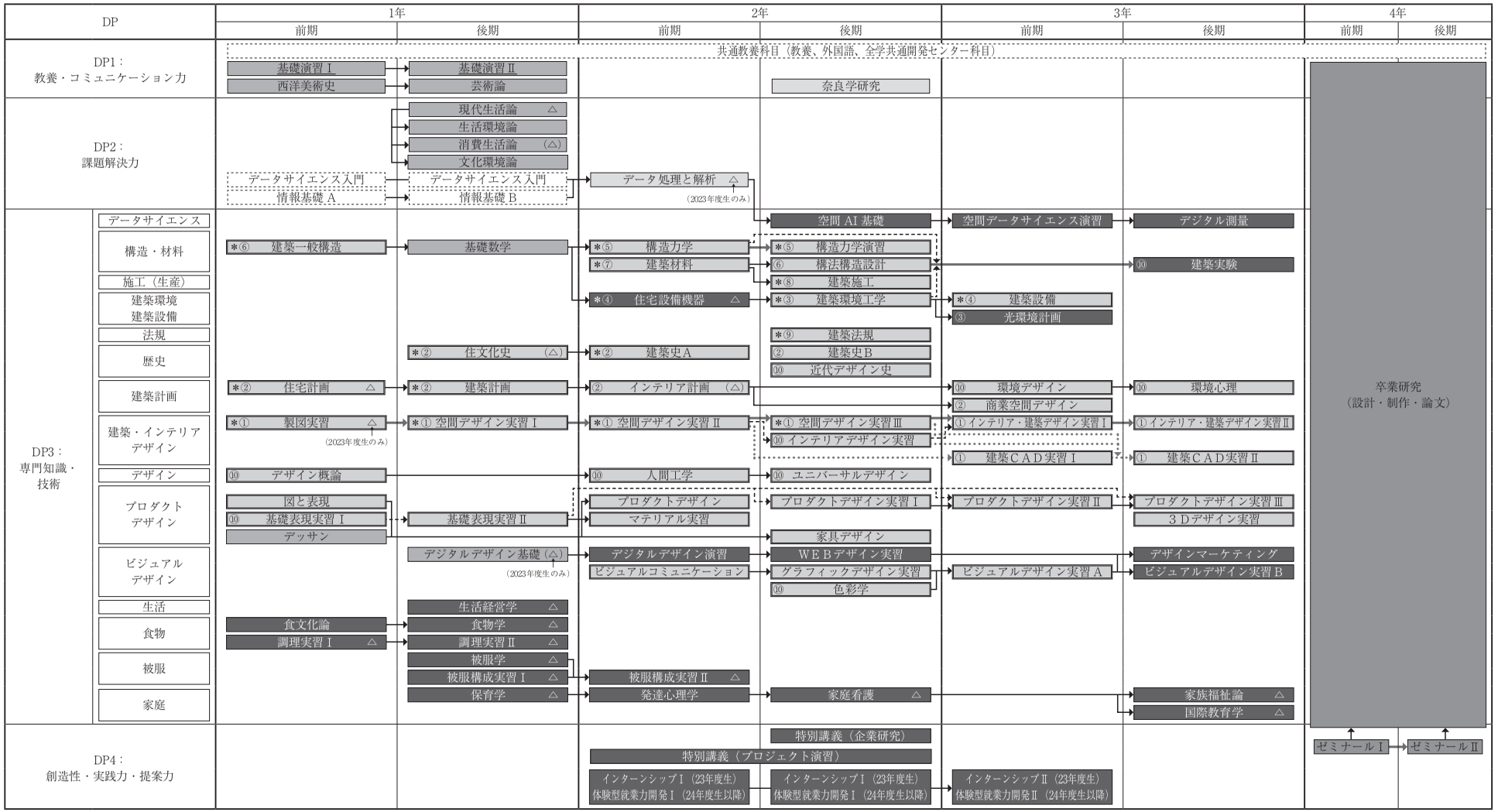
科目名	科目ナンバリング
住宅設備機器	K341C
光環境計画	K341D
構造力学	K351A
構造力学演習	K351B
構法構造設計	K351C
建築材料	K351D
建築施工	K351E
建築実験	K351F
空間ＡⅠ基礎	K351H
空間データサイエンス演習	K351Ⅰ
デジタル測量	K351J
家具デザイン	K361A
プロダクトデザイン	K361B
プロダクトデザイン実習Ⅰ	K361D
プロダクトデザイン実習Ⅱ	K362D
プロダクトデザイン実習Ⅲ	K363D
3Dデザイン実習	K361E
デジタルデザイン基礎	K371A
ビジュアルコミュニケーション	K371B
グラフィックデザイン実習	K371C
ビジュアルデザイン実習A	K372C
ビジュアルデザイン実習B	K373C
デジタルデザイン演習	K371D
WEBデザイン実習	K371E
食文化論	K381A
食物学	K381B
調理実習Ⅰ	K381C
調理実習Ⅱ	K382C
生活経営学	K381D
保育学	K381E
被服学	K381F
被服構成実習Ⅰ	K381G
被服構成実習Ⅱ	K382G
発達心理学	K381H
家庭看護	K381Ⅰ
家族福祉論	K381J
ゼミナールⅠ	K411A
ゼミナールⅡ	K412A
卒業研究	K411B
インターンシップⅠ（23年度生）体験型就業力開発Ⅰ（24年度生以降）	K011A
インターンシップⅡ（23年度生）体験型就業力開発Ⅱ（24年度生以降）	K012A
海外文化演習	K011B
特別講義（企業研究）	K011C
特別講義（プロジェクト演習）	K011D

居住空間デザイン学科ナンバリングカリキュラム・マップ（2023年度生以降）

授業科目	ディプロマ・ポリシー			
	DP1	DP2	DP3	DP4
	教養・コミュニケーション力	課題解決力	専門知識・技術	創造性・実践力・提案力
基礎演習Ⅰ	◎	○		
基礎演習Ⅱ	◎	○		
現代生活論		◎		○
消費生活論		◎		○
生活環境論		◎		○
文化環境論		◎		○
デッサン			◎	○
芸術論	◎		○	
西洋美術史	◎		○	
基礎数学		○	◎	
デジタルデザイン基礎		○	◎	
データ処理と解析		◎	○	
住宅計画		○	◎	
図と表現		○	◎	
製図実習			◎	○
空間デザイン実習Ⅰ			◎	○
空間デザイン実習Ⅱ			◎	○
空間デザイン実習Ⅲ			◎	○
インテリア・建築デザイン実習Ⅰ			◎	○
インテリア・建築デザイン実習Ⅱ			◎	○
インテリアデザイン実習			◎	○
建築CAD実習Ⅰ			◎	○
建築CAD実習Ⅱ			◎	○
建築計画		○	◎	
インテリア計画		○	◎	
商業空間デザイン		○	◎	
住文化史		○	◎	
建築史A		○	◎	
建築史B		○	◎	
ユニバーサルデザイン		○	◎	
建築環境工学		○	◎	
建築設備		○	◎	
構造力学		○	◎	
構造力学演習		○	◎	
建築一般構造		○	◎	
構法構造設計		○	◎	
建築材料		○	◎	
建築施工		○	◎	
建築法規		○	◎	
デザイン概論		○	◎	
人間工学		○	◎	
家具デザイン		○	◎	
近代デザイン史		○	◎	
色彩学		○	◎	
環境デザイン		○	◎	
環境心理		○	◎	
基礎表現実習Ⅰ			◎	○
基礎表現実習Ⅱ			◎	○
マテリアル実習			◎	○
プロダクトデザイン		○	◎	
プロダクトデザイン実習Ⅰ			◎	○
プロダクトデザイン実習Ⅱ			◎	○
プロダクトデザイン実習Ⅲ			◎	○
ビジュアルコミュニケーション		○	◎	
グラフィックデザイン実習			◎	○
ビジュアルデザイン実習A			◎	○
ビジュアルデザイン実習B			◎	○

授業科目	ディプロマ・ポリシー			
	DP1	DP2	DP3	DP4
	教養・コミュニケーション力	課題解決力	専門知識・技術	創造性・実践力・提案力
奈良学研究	◎		○	
デジタルデザイン演習			◎	○
WEB デザイン実習			◎	○
3D デザイン実習			◎	○
デザインマーケティング		○	◎	
住宅設備機器			◎	○
光環境計画			◎	○
建築実験			◎	○
空間 AI 基礎		○	◎	
空間データサイエンス演習		○	◎	
デジタル測量			◎	○
発達心理学		○	◎	
家族福祉論		○	◎	
食文化論		○	◎	
家庭看護		○	◎	
生活経営学		○	◎	
被服学		○	◎	
被服構成実習Ⅰ			◎	○
被服構成実習Ⅱ			◎	○
食物学		○	◎	
調理実習Ⅰ			◎	○
調理実習Ⅱ			◎	○
保育学		○	◎	
ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟⅠ（23年度生）体験型就業力開発Ⅰ（24年度生以降）	○			◎
ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟⅡ（23年度生）体験型就業力開発Ⅱ（24年度生以降）	○			◎
特別講義（企業研究）		○		◎
特別講義（プロジェクト演習）		○		◎
海外文化演習	○			◎
ゼミナールⅠ			○	◎
ゼミナールⅡ			○	◎
卒業研究			○	◎

居住空間デザイン学科カリキュラム・ツリー（2025・2026年度生以降）



注記）専門基礎科目：
専門基幹科目：
専門関連科目：
専門研究科目：

下線：必修科目、教職課程：△、() 付きは選択科目、①～⑩：建築士指定科目、＊：二級建築士受験に際して履修が好ましい科目

：一般的なフロー　：ステップ制（順序が重要）　：ステップ制（科目修得条件ルート）

共通科目：

資格課程

この項には、資格取得に必要な科目を履修するうえで、重要な事項についての説明又は注意事項が記載されています。科目の履修にあたっては、これらのことがらをよく理解しておいてください。

資格課程	取得資格	取得可能学科	
		食物	居住
1．教職課程「中学校・高等学校教諭免許、栄養教諭免許」	中学校教諭一種免許（家庭） 高等学校教諭一種免許（家庭）		○
	栄養教諭一種免許	○	
2．栄養士・管理栄養士課程	栄養士免許 管理栄養士受験資格	○	
3．フードスペシャリスト課程	フードスペシャリスト資格 専門フードスペシャリスト（食品開発）資格 専門フードスペシャリスト（食品流通・サービス）資格	○	
4．NR・サプリメントアドバイザー課程	NR・サプリメントアドバイザー資格	○	
5．建築士課程	一級建築士受験資格 二級建築士受験資格		○
6．インテリアプランナー課程	インテリアプランナー登録資格		○
7．商業施設士資格認定課程	商業施設士補（商業施設士受験資格）		○
8．司書教諭課程	司書教諭資格		○

食物…食物栄養学科　居住…居住空間デザイン学科

１．教職課程「中学校・高等学校教諭免許、栄養教諭免許」（食物栄養・居住空間デザイン学科）

教育職員免許法にもとづく免許状を得ようとする者のために設置されている課程です。教職に従事するためには、教育職員免許法にもとづく免許状を取得し、さらに教員採用試験に合格しなければなりません。

また、教職は不断の研修を通じて、学ぶべき高度の専門的知識・技術を必要とする専門職として位置づけられています。

本学部の教職課程においては、学科ごとに次の各免許状を卒業と同時に取得することが可能です。

	中学一種（家庭）	高等学校一種（家庭）	栄養教諭一種
食物栄養学科			○
居住空間デザイン学科	○	○	

これらの免許状を取得するためには、卒業に必要な単位のほかに、次のとおり必要単位を修得しなければなりません。

各免許必要単位数

	⑴教育の基礎的理解に関する科目等	⑵栄養に係る教育に関する科目（食栄）、教科及び教科の指導法に関する科目（居住）		⑶大学が独自に設定する科目	⑷教育職員免許法施行規則第66条の６に定められた科目	計
		食物	居住			
中学校一種（家庭）	29単位	—	28単位	４単位	８単位	69単位
高等学校一種（家庭）	25単位②	—	32単位③	４単位①	８単位	69単位
栄養教諭一種	26単位	４単位	—	—	８単位	38単位

※高等学校一種（家庭）について、①「大学が独自に設定する科目」の教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位は12単位であり、②（最低修得単位23単位）および③（最低修得単位24単位）の最低修得単位を超えた単位を併せることにより12単位を充たします。

※栄養教諭一種の免許状取得希望者は、併せて栄養士免許の取得及び管理栄養士課程を修了することが必要です。

※⑴教育の基礎的理解に関する科目等、⑵教科及び教科の指導法に関する科目の「各教科の指導法」及び⑶大学が独自に設定する科目の道徳教育論・総合演習の科目については、年間履修単位数の制限と、卒業所要単位に含まれず、GPA の対象外となる科目です。

(1) 教育の基礎的理解に関する科目等

〔中学校一種・高等学校一種〕（居住空間デザイン学科）

区分	科目コード	授業科目	単位数		配当年次	開講時期	履修方法	担当者
			必修	選択				
教育の基礎的理解に関する科目	SZ02	教育原論	2		２３４	前期集中		鈴木（卓）
	SZ33	教職入門	2		１２３４	後期		元根
	SZ05	教育行政学		2	３４	後期	いずれか一科目必修	江上
	SZ06	教育社会学		2	３４	後期		高藤
	SZ04	教育心理学	2		２３４	前期・後期		岡村、清水
	SZ31	特別支援教育論	2		２３４	後期		楠
	SZ07	教育課程論	2		２３４	前期集中		鎌田
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	SZ09	道徳教育論	（2）		２３４	後期	中学のみ	信田
	SZ32	特別活動および総合的な学習の時間の指導法	2		２３４	後期集中		渡邉（由）
	SZ35	教育の方法・ICT の活用	2		２３４	後期		福田
	SZ12	生徒・進路指導論	2		３４	後期集中		鈴木（卓）
	SZ13	教育相談	2		３４	後期		岡村
教育実践に関する科目	SZ16	教育実習Ⅰ（事前・事後の指導を含む）	3		4	通年集中		鈴木（卓）
	SZ17	教育実習Ⅱ	（2）		4	前期集中	中学のみ	鈴木（卓）
	SZ27	教職実践演習（中・高）	2		4	後期		元根

〔栄養教諭一種〕（食物栄養学科）

区分	科目コード	授業科目	単位数		配当年次	開講時期	履修方法	担当者
			必修	選択				
教育の基礎的理解に関する科目	SZ02	教育原論	2		２３４	後期		元根
	SZ33	教職入門	2		１２３４	前期		鈴木（卓）
	SZ05	教育行政学		2	３４	前期	いずれか一科目必修	江上
	SZ06	教育社会学		2	３４	後期		高藤
	SZ04	教育心理学	2		２３４	前期・後期		岡村、清水
	SZ31	特別支援教育論	2		２３４	後期		楠
	SZ07	教育課程論	2		２３４	前期集中		鎌田
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	SZ09	道徳教育論	2		２３４	後期		信田
	SZ32	特別活動および総合的な学習の時間の指導法	2		２３４	後期集中		渡邉（由）
	SZ35	教育の方法・ICT の活用	2		２３４	後期		福田
	SZ23	生徒指導論	2		３４	前期		渡邉（由）
	SZ13	教育相談	2		３４	後期		岡村
教育実践に関する科目	SZ34	学校栄養教育実習（事前・事後の指導を含む）	2		4	通年集中		リレー：新宅・玉井・林屋
	SZ28	教職実践演習（栄養教諭）	2		4	後期		リレー：新宅・玉井・林屋・城

⑵ 教科及び教科の指導法に関する科目

〔中学校一種・高等学校一種〕（居住空間デザイン学科）

【2023年度生】

区分			科目コード	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む）	SH25	生活経営学	2		1 2 3 4	専門科目
			SG04	消費生活論		2	1 2 3 4	専門科目
			SG03	現代生活論	2		1 2 3 4	専門科目
			SH45	家族福祉論	2		3 4	専門科目
		被服学（被服製作実習を含む）	SH26	被服学	2		1 2 3 4	専門科目
			SH27	被服構成実習Ⅰ	1		1 2 3 4	専門科目
			SH28	被服構成実習Ⅱ	1		2 3 4	専門科目
		食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む）	SH48	食物学	2		1 2 3 4	専門科目
			SH49	調理実習Ⅰ	1		1 2 3 4	専門科目
			SH50	調理実習Ⅱ	1		1 2 3 4	専門科目
		住居学（高校のみ製図含む）	SD35	住宅計画	2		1 2 3 4	専門科目
			SD55	建築一般構造	2		1 2 3 4	専門科目
			SD65	製図実習	（2）		1 2 3 4	高校のみ 専門科目
			SD46	インテリア計画		2	2 3 4	専門科目
			SD47	住文化史		2	1 2 3 4	専門科目
		保育学（中学：実習含む　高校：実習及び家庭看護を含む）	SH30	保育学	2		1 2 3 4	専門科目
			SH21	家庭看護	（2）		2 3 4	高校のみ 専門科目
		家庭電気・家庭機械及び情報処理（高校のみ）	SH97	住宅設備機器	（2）		2 3 4	専門科目
			SG28	データ処理と解析	（2）		2 3 4	高校のみ 専門科目
			SG27	デジタルデザイン基礎		（2）	1 2 3 4	専門科目
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		SZ08	教科教育法（家庭科）Ⅰ	4		2 3 4	開講時期：通年　担当者：林屋
			SZ21	教科教育法（家庭科）Ⅱ	（2）		3 4	開講時期：前期　担当者：林屋　中学のみ
			SZ22	教科教育法（家庭科）Ⅲ	（2）		3 4	開講時期：後期　担当者：林屋　中学のみ

【2024・25・26年度生】

区分			科目コード	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む）	SH25	生活経営学	2		1 2 3 4	専門科目
			SG04	消費生活論		2	1 2 3 4	専門科目
			SG03	現代生活論	2		1 2 3 4	専門科目
			SH45	家族福祉論	2		3 4	専門科目
		被服学（被服実習を含む）	SH26	被服学	2		1 2 3 4	専門科目
			SH27	被服構成実習Ⅰ	1		1 2 3 4	専門科目
			SH28	被服構成実習Ⅱ	1		2 3 4	専門科目
		食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む）	SH48	食物学	2		1 2 3 4	専門科目
			SH49	調理実習Ⅰ	1		1 2 3 4	専門科目
			SH50	調理実習Ⅱ	1		1 2 3 4	専門科目
		住居学	SD35	住宅計画	2		1 2 3 4	専門科目
			SD55	建築一般構造	2		1 2 3 4	専門科目
			SH97	住宅設備機器	（2）		2 3 4	高校のみ 専門科目
			SD46	インテリア計画		2	2 3 4	専門科目
			SD47	住文化史		2	1 2 3 4	専門科目
		保育学	SH30	保育学	2		1 2 3 4	専門科目
			SH21	家庭看護	（2）		2 3 4	高校のみ 専門科目
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		SZ08	教科教育法（家庭科）Ⅰ	4		2 3 4	開講時期：通年　担当者：林屋
			SZ21	教科教育法（家庭科）Ⅱ	（2）		3 4	開講時期：前期　担当者：林屋　中学のみ
			SZ22	教科教育法（家庭科）Ⅲ	（2）		3 4	開講時期：後期　担当者：林屋　中学のみ

〔栄養教諭一種〕（食物栄養学科）

区分	科目コード	授業科目	単位数		配当年次	備考
			必修	選択		
栄養に係る教育に関する科目	SI19	学校栄養教育論Ⅰ	2		２３４	専門科目
	SI20	学校栄養教育論Ⅱ	2		２３４	専門科目

⑶ 大学が独自に設定する科目

〔中学校一種・高等学校一種〕（居住空間デザイン学科）

科目コード	授業科目	単位数		配当年次	備考
		必修	選択		
SA15	人権論Ａ		2	１２３４	共通教養科目
SA16	人権論Ｂ		2	１２３４	いずれか一科目必修　共通教養科目
SI30	国際教育学		2	３４	開講時期：後期　担当者：高藤　専門科目
SZ09	道徳教育論		（2）	２３４	高校のみ
SZ29	総合演習	2		２３４	開講時期：前期集中　担当者：鈴木（卓）

⑷ 教育職員免許法施行規則第66条の６に定められた科目

科目コード	授業科目	単位数		配当年次	備考
		必修	選択		
SB21	英語Ａ	1		１２３４	共通教養科目
SB22	英語Ｂ	1		１２３４	共通教養科目
SA21	日本国憲法	2		１２３４	共通教養科目
SA17	情報基礎Ａ		2	１２３４	２単位必修　共通教養科目
SA18	情報基礎Ｂ		2	１２３４	共通教養科目
SA19	健康科学Ａ		2	１２３４	２単位必修　共通教養科目
SA20	健康科学Ｂ		2	１２３４	共通教養科目

⑸ 「教育実習」の履修について

４年次に「教育実習」（中学校一種…５単位・３週間以上、高等学校一種…３単位・２週間）を履修できるのは、次の要件を満たしている者に限ります。

① 卒業と同時に教職に就くことを希望する者

② ３年次終了時に次の条件を満たしている者

○中学校一種免許状

・「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の中から12単位以上修得していること。

・「教科及び教科の指導法に関する科目」の中から教科教育法の必修科目を含めて20単位以上修得し、かつ７日間の介護等体験を終了している者。

○高等学校一種免許状

・「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の中から10単位以上修得していること。

・「教科及び教科の指導法に関する科目」の中から教科教育法の必修科目を含めて22単位以上修得していること。

③　３年次終了までに実習希望校の内諾を得ていること。

教育実習は原則として自分で実習校を開拓してください。学生自身が母校等へ個々に交渉して内諾を受けてください。従って大学での紹介・斡旋はしません。（但し一部の自治体の公立学校では、特別な申請手続きが必要となり、個人で実習校を確保することはできないので、大学が一括して申請手続きを行います。）

手続きの詳細については、ガイダンスで説明します。

⑹ 「学校栄養教育実習」の履修について

栄養教諭免許状取得希望者は、小・中学校で１週間の栄養教育実習を行わなければなりません。履修できるのは、次の要件を満たしている者に限ります。手続きの詳細については、ガイダンスで説明します。

① 「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の中から６単位以上修得していること。

② 栄養に係る教育に関する科目「学校栄養教育論Ⅰ」および「学校栄養教育論Ⅱ」の４単位修得していること。

⑺ 「介護等体験」について

中学校一種（家庭）の免許状取得希望者は、養護施設、老人ホーム等で７日間の介護等体験を行わなければなりません。これは、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」に基づき実施するものです。（高等学校の教員免許状のみの希望者は対象外です。）

また、体験実習施設に健康診断書を提出する必要がありますので、学内で実施する健康診断は必ず受診してください。

⑻ 教職課程の履修について

教職課程の履修を希望する者は、履修登録の際に必ず資格登録及び該当科目の登録をしてください。免許状取得までには様々な手続きが必要となるので、年間を通じて諸手続きに関するガイダンスを開催します。掲示に注意して、必ず出席してください。ガイダンスに無断欠席したり、決められた期間内に手続きを怠った場合は、教職課程の履修放棄とみなし、登録を抹消するので注意してください。

⑼ 実習費について

○居住空間デザイン学科

「調理実習Ⅰ」…実習費として7,500円が必要（１年次）

「調理実習Ⅱ」…実習費として9,000円が必要（１年次）

「教育実習」…実習校に支払う委託費・通信費・交通費・免許申請手数料等が必要（４年次）

「介護等体験」…体験費用等として10,000円、保険料・交通費（実費）等の費用が必要（３年次）

○食物栄養学科

「栄養教育実習」…実習校に支払う委託費・通信費等として8,000円（４年次）・免許申請手数料等（４年次）・交通費（実費）が必要

２．栄養士・管理栄養士課程（食物栄養学科）

食物栄養学科では、栄養士法、同法施行令、同法施行規則及び管理栄養士学校指定規則に定める科目を修得した場合、「栄養士」の免許及び「管理栄養士」の受験資格が与えられます。

これらの免許・資格を得るためには、「卒業に必要な単位」を修得することが前提になります。

⑴ 栄養士法等に定められている科目

別表に指定する科目の単位（管理栄養士 85単位、栄養士 56単位）を修得しなければなりません。

これらの科目は、半期15回授業を実施することが定められており、授業回数が15回確保できない時は、必ず補講が実施されます。

⑵ 管理栄養士課程の履修について

履修登録の際に必ず登録して下さい。また、卒業と同時に栄養士免許状が取得できるため、免許状取得のためのガイダンスを必要に応じて開催します。掲示に注意して、必ず出席してください。

⑶ 「臨地実習」の履修について

臨地実習の履修に際しては、次の一覧に定める履修条件科目を履修しなければなりません。

臨地実習Ⅰ、Ⅳ、Ⅴについては、下記に定める履修条件科目を単位修得済もしくは履修中であることが必要です。

臨地実習Ⅱ、Ⅲについては、実習を行う年度の前年度までに、下記に示す履修条件科目のうちすべての講義科目と１つ以上の実習科目を単位修得済であることが必要です。

臨地実習	履修条件科目
臨地実習Ⅰ（給食の運営） 臨地実習Ⅴ（給食経営管理論）	給食経営管理論Ⅰ 給食経営管理論Ⅱ 給食経営管理実習
臨地実習Ⅱ（臨床栄養学ⅰ） 臨地実習Ⅲ（臨床栄養学ⅱ）	臨床栄養学Ⅰ 臨床栄養学Ⅱ 臨床栄養学Ⅲ 臨床栄養学実習Ⅰ 臨床栄養学実習Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅲ
臨地実習Ⅳ（公衆栄養学）	公衆栄養学Ⅰ 公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習

⑷ 実習費等について

臨地実習Ⅰ履修者は10,000円、臨地実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ履修者は33,000円を指定期間内に実習費として納入しなければなりません。

別表

管理栄養士養成施設の指定基準

教育内容		単位数		科目名	単位数	
		講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	10	公衆衛生学Ⅰ	2	
				公衆衛生学Ⅱ	2	
				公衆衛生学Ⅲ	2	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14		解剖生理学Ⅰ	2	
				解剖生理学Ⅱ	2	
				解剖生理学実験		1
				運動生理学	2	
				運動生理学実験		1
				生化学	2	
				生化学実験		1
				臨床医学概論Ⅰ	2	
				臨床医学概論Ⅱ	2	
				臨床医学概論Ⅲ	2	
				微生物学	2	
				微生物学実験		1
	食べ物と健康	8		食品学総論	2	
				食品学各論	2	
				食品加工学実習		1
				食品衛生学	2	
				食品衛生学実験		1
				食品学実験Ⅰ		1
				食品学実験Ⅱ		1
				調理学	2	
				調理学実習Ⅰ		1
				調理学実習Ⅱ		1
専門分野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学Ⅰ	2	
				基礎栄養学実験		1
	応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ	2	
				応用栄養学Ⅱ	2	
				応用栄養学Ⅲ	2	
				応用栄養学実習		1
	栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ	2	
				栄養教育論Ⅱ	2	
				栄養教育論Ⅲ	2	
				栄養教育論実習Ⅰ		1
	臨床栄養学	8		臨床栄養学Ⅰ	2	
				臨床栄養学Ⅱ	2	
				臨床栄養学Ⅲ	2	
				食事介助論	2	
				臨床栄養学実習Ⅰ		1
				臨床栄養学実習Ⅱ		1
				臨床栄養学実習Ⅲ		1
	公衆栄養学	4		公衆栄養学Ⅰ	2	
				公衆栄養学Ⅱ	2	
				公衆栄養学実習		1
	給食経営管理論	4		給食経営管理論Ⅰ	2	
				給食経営管理論Ⅱ	2	
				給食経営管理実習		2
	総合演習	2	−	管理栄養士総合演習Ⅰ	1	
				管理栄養士総合演習Ⅱ	1	
	臨地実習	−	4	臨地実習Ⅰ（給食の運営）		1
				臨地実習Ⅱ（臨床栄養学ⅰ）		2
				臨地実習Ⅲ（臨床栄養学ⅱ）	このうち1単位	1
				臨地実習Ⅳ（公衆栄養学）		1
				臨地実習Ⅴ（給食経営管理論）		1
小　計		60	22	小　計	62	23
合　計		82		合　計	85	

別表

栄養士法施行規則の規定

教育内容	単位数		科目名	単位数	
	講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習
社会生活と健康	4	4	公衆衛生学Ⅰ	2	
			公衆衛生学Ⅱ	2	
人体の構造と機能	8		解剖生理学Ⅰ	2	
			解剖生理学Ⅱ	2	
			解剖生理学実験		1
			生化学	2	
			生化学実験		1
			臨床医学概論Ⅰ	2	
食品と衛生	6		食品学総論	2	
			食品学各論	2	
			食品衛生学	2	
			食品衛生学実験		1
			食品学実験Ⅰ		1
栄養と健康	8	10	基礎栄養学Ⅰ	2	
			基礎栄養学実験		1
			応用栄養学Ⅰ	2	
			応用栄養学Ⅱ	2	
			応用栄養学Ⅲ	2	
			応用栄養学実習		1
			臨床栄養学Ⅰ	2	
			臨床栄養学Ⅱ	2	
			臨床栄養学実習Ⅰ		1
栄養の指導	6		栄養教育論Ⅰ	2	
			栄養教育論Ⅱ	2	
			栄養教育論実習Ⅰ		1
			公衆栄養学Ⅰ	2	
			公衆栄養学実習		1
給食の運営	4		調理学	2	
			調理学実習Ⅰ		1
			調理学実習Ⅱ		1
			給食経営管理論Ⅰ	2	
			給食経営管理論Ⅱ	2	
			給食経営管理実習		2
			臨地実習Ⅰ（給食の運営）		1
小　計	36	14	小　計	42	14
合　計	50		合　計	56	

３．フードスペシャリスト課程（食物栄養学科）

食物栄養学科では、公益社団法人日本フードスペシャリスト協会が指定する下表の単位をすべて修得し、協会が実施する「フードスペシャリスト資格」、その上級の「専門フードスペシャリスト（食品開発）資格」及び「専門フードスペシャリスト（食品流通・サービス）資格」の認定試験に合格し、「卒業に必要な単位」を修得すれば、認定試験に合格した資格を取得することができます。但し、上級の両資格の受験資格を有する方は、「フードスペシャリスト資格」の認定試験を同時に受験する方又はその認定試験に既に合格している方です。同じ年に「フードスペシャリスト資格」と上級のどちらかの資格のみしか受験できません。なお、卒業後に認定試験を受験される場合は、公益社団法人日本フードスペシャリスト協会のホームページを確認して手続きを行ってください。

日本フードスペシャリスト協会規定科目	単位数	本学授業科目	必要単位数
フードスペシャリスト論	2	フードスペシャリスト論	2
食品の官能評価・鑑別論	2	食品学実験Ⅱ	1
		フードプロセス論	2
食物学に関する科目	5	食品学総論	2
		食品学各論	2
		食品加工学実習	どちらか１科目、１単位
		食品学実験Ⅰ	
食品の安全性に関する科目	2	食品衛生学	2
調理学に関する科目	4	調理学	2
		調理学実習Ⅰ	1
		調理学実習Ⅱ	1
栄養と健康に関する科目	2	基礎栄養学Ⅰ	2
食品流通・消費に関する科目	2	フードマーケティング論	2
フードコーディネート論	2	フードコーディネート論	2

⑴ フードスペシャリスト課程の履修について

フードスペシャリスト課程の履修を希望する者は、履修登録の際に必ず資格登録してください。３年次から資格認定試験を受験することができます。資格取得までに受験等の手続きが必要になりますので掲示に注意してください。

⑵ 資格認定に関する日程

日程	内容
３年次又は４年次　９月	受験申込み
３年次又は４年次　12月中旬の日曜日	資格認定試験実施（試験会場は本学）
３年次又は４年次　１月下旬	合否判定結果通知
４年次　２月上旬	資格認定証交付申請
４年次　卒業式当日	資格認定証授与

⑶ 認定試験受験料および認定証交付手数料について

資格	認定試験受験料	認定証交付手数料
フードスペシャリスト資格	5,500円	5,500円
専門フードスペシャリスト（食品開発）資格	3,300円	3,300円
専門フードスペシャリスト（食品流通・サービス）資格	3,300円	3,300円

４．NR・サプリメントアドバイザー課程（食物栄養学科）

食物栄養学科は、一般社団法人日本臨床栄養協会の学校会員（学校登録認定校）です。サプリメントアドバイザー特別演習の単位を修得し、協会が指定する通信教育を受講した上で、協会が実施する認定試験に合格すれば、NR・サプリメントアドバイザー資格を取得することができます（５年更新)。

なお、卒業後の手続きは一般社団法人日本臨床栄養協会のホームページを確認して行ってください。

	単位数
サプリメントアドバイザー特別演習	2

⑴ NR・サプリメントアドバイザー課程の履修について

NR・サプリメントアドバイザー課程の履修を希望する者は、３月下旬に学生会員申込み及び通信教育受講申込みを行ってください（別途、費用が必要です)。３年次から資格認定試験を受験することができます。資格取得までに受験等の手続きが必要になりますので掲示に注意してください。

⑵ 資格認定に関する日程

日程	内容
３年次又は４年次　３月末	学生会員入会申込み及び通信教育受講申込み
３年次又は４年次　９月	受験申込み
３年次又は４年次　12月初旬の日曜日	資格認定試験実施（近隣の外部会場）
３年次又は４年次　12月下旬	合否判定結果通知
３年次又は４年次　１月上旬	資格認定証交付

⑶ 資格取得のための受験料等について

項目	費用
学生会員年会費	4,000円（毎年）
通信教育費	5,100円
認定試験受験料	15,300円

５．建築士課程（居住空間デザイン学科）

一級建築士受験資格及び二級建築士受験資格を取得しようとする者は、卒業に必要な単位のほかに、次の建築士指定科目表のとおり履修し、その単位を修得しなければなりません。各指定科目の分類の要件単位数及び試験時の要件単位数を修得することで受験資格を取得できます。

建築士指定科目表

<table>
<tr><td colspan="4">指定科目の分類（要件単位数）</td><td colspan="2">2023・24・25・26年度生</td></tr>
<tr><td colspan="2">二級</td><td colspan="2">一級</td><td>本学授業科目名</td><td>単位</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="8">①建築設計製図（3単位以上）</td><td colspan="2" rowspan="8">①建築設計製図（7単位以上）</td><td>製図実習</td><td>2</td></tr>
<tr><td>空間デザイン実習Ⅰ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>空間デザイン実習Ⅱ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>空間デザイン実習Ⅲ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>インテリア・建築デザイン実習Ⅰ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>インテリア・建築デザイン実習Ⅱ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>建築 CAD 実習Ⅰ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>建築 CAD 実習Ⅱ</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="10">②～④建築計画、建築環境工学又は建築設備（2単位以上）</td><td colspan="2" rowspan="7">②建築計画（7単位以上）</td><td>住宅計画</td><td>2</td></tr>
<tr><td>商業空間デザイン</td><td>2</td></tr>
<tr><td>建築史Ｂ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>インテリア計画</td><td>2</td></tr>
<tr><td>住文化史</td><td>2</td></tr>
<tr><td>建築史Ａ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>建築計画</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">③建築環境工学（2単位以上）</td><td>建築環境工学</td><td>2</td></tr>
<tr><td>光環境計画</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">④建築設備（2単位以上）</td><td>建築設備</td><td>2</td></tr>
<tr><td>住宅設備機器</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="4">⑤～⑦構造力学、建築一般構造又は建築材料（3単位以上）</td><td colspan="2" rowspan="2">⑤構造力学（4単位以上）</td><td>構造力学</td><td>2</td></tr>
<tr><td>構造力学演習</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">⑥建築一般構造（3単位以上）</td><td>建築一般構造</td><td>2</td></tr>
<tr><td>構法構造設計</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">⑦建築材料（2単位以上）</td><td>建築材料</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">⑧建築生産（1単位以上）</td><td colspan="2">⑧建築生産（2単位以上）</td><td>建築施工</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">⑨建築法規（1単位以上）</td><td colspan="2">⑨建築法規（1単位以上）</td><td>建築法規</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="14">⑩その他</td><td colspan="2" rowspan="14">⑩その他</td><td>図と表現</td><td>2</td></tr>
<tr><td>ユニバーサルデザイン</td><td>2</td></tr>
<tr><td>デザイン概論</td><td>2</td></tr>
<tr><td>環境デザイン</td><td>2</td></tr>
<tr><td>人間工学</td><td>2</td></tr>
<tr><td>環境心理</td><td>2</td></tr>
<tr><td>近代デザイン史</td><td>2</td></tr>
<tr><td>基礎表現実習Ⅰ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>建築実験</td><td>2</td></tr>
<tr><td>色彩学</td><td>2</td></tr>
<tr><td>インテリアデザイン実習</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">10単位以上</td><td colspan="2">30単位以上</td><td colspan="2">①～⑨の要件単位数
合計</td></tr>
<tr><td colspan="2">20単位以上</td><td colspan="2">40単位以上</td><td colspan="2">試験時の要件単位数
（①～⑩の合計単位数）
実務経験必要なし</td></tr>
<tr><td>40単位以上</td><td>実務経験なし</td><td>60単位以上</td><td>実務経験2年</td><td colspan="2" rowspan="3">登録時の要件単位数
（①～⑩の合計単位数）と
実務経験年数</td></tr>
<tr><td>30単位以上</td><td>実務経験1年</td><td>50単位以上</td><td>実務経験3年</td></tr>
<tr><td>20単位以上</td><td>実務経験2年</td><td>40単位以上</td><td>実務経験4年</td></tr>
</table>

６．インテリアプランナー課程（居住空間デザイン学科）

居住空間デザイン学科は、（公益財団法人）建築技術教育普及センターから「個別に認められている課程」に認定されています。そのため、インテリアプランナー試験に合格し、次のインテリアプランナーに関する科目の単位を修得して卒業すれば、実務経験なしでインテリアプランナー登録を受けることができます。

インテリアプランナーとは、建築物のインテリアの設計及び工事監理並びにこれらに附帯する業務に従事する者のインテリア設計等に関する知識及び技能を認定する資格です。試験は「学科試験」および「設計製図試験」により構成され、「学科試験」に合格し、その５年以内に「設計製図試験」にも合格した者をインテリアプランナー試験の合格者とします。「学科試験」に合格した者はアソシエイト・インテリアプランナー（准インテリアプランナー）の登録資格を得ることができます。

なお、インテリアプランナーは商業施設士試験の構想表現（実技）試験を実務経験なしで受験できます。また、学科試験の選択問題のうち「施設と設計」の科目が免除されます。

インテリアプランナーに関する科目

2023・24・25・26年度生		必要単位数
科　目　名	単位数	
デッサン	2	A （36－B－C） 単位以上
芸術論	2	
西洋美術史	2	
建築史Ｂ	2	
住文化史	2	
建築史Ａ	2	
プロダクトデザイン	2	
プロダクトデザイン実習Ⅰ	2	
プロダクトデザイン実習Ⅱ	2	
デザイン概論	2	
環境デザイン	2	
近代デザイン史	2	
ビジュアルコミュニケーション	2	
基礎表現実習Ⅰ	2	
色彩学	2	
住宅計画	2	B （24－C） 単位以上
建築 CAD 実習Ⅰ	2	
建築 CAD 実習Ⅱ	2	
商業空間デザイン	2	
インテリア計画	2	
ユニバーサルデザイン	2	
建築計画	2	
建築環境工学	2	
建築設備	2	
構造力学	2	
建築一般構造	2	
建築材料	2	
建築施工	2	
建築法規	2	
家具デザイン	2	
人間工学	2	
プロダクトデザイン実習Ⅲ	2	
光環境計画	2	
製図実習	2	C 2単位以上
空間デザイン実習Ⅰ	2	
空間デザイン実習Ⅱ	2	
空間デザイン実習Ⅲ	2	
インテリア・建築デザイン実習Ⅰ	2	
インテリア・建築デザイン実習Ⅱ	2	
インテリアデザイン実習	2	

7．商業施設士資格認定課程（居住空間デザイン学科）

「商業施設士」とは、あらゆる商業施設の運営管理システムや店舗の構成・デザインなどを総合的に計画し、監理まで行う専門家です。資格試験は学科試験と構想表現（実技）試験からなります。

居住空間デザイン学科は「商業施設士資格認定校」として認定されており、以下に示された科目の単位を修得すると、公益社団法人　商業施設技術・団体連合会の指定する講習会を受講、さらに登録をすることで「商業施設士補」の資格が与えられます。「商業施設士補」の資格保持者は、「商業施設士」資格試験受験時（満20歳から受験可能）の学科試験が免除され、構想表現（実技）試験のみ受験することになります。（実務経験不要）

商業施設士資格認定課程に関する科目

群	区分	内容	2023・24・25・26年度生		必要単位数
			本学授業科目	単位	
【A 群】	A－1 商業一般	商業一般に関する科目	現代生活論	各2	2区分以上にわたり、計30単位以上
			消費生活論		
			生活環境論		
			デザインマーケティング		
	A－2 業態計画	商業施設の構成に関する科目	商業空間デザイン	各2	
			家具デザイン		
			環境デザイン		
			環境心理		
			近代デザイン史		
	A－3 計画一般	商業施設の企画、商業施設の計画、法規、安全計画、展示・装置計画、設計に関する科目	西洋美術史	各2	
			建築史 B		
			インテリア計画		
			ユニバーサルデザイン		
			人間工学		
			色彩学		
			光環境計画		
	A－4 施設計画	建築一般に関する科目	住宅計画	各2	
			建築史 A		
			建築計画		
			建築環境工学		
			建築設備		
			構造力学		
			建築一般構造		
			建築法規		
	A－5 監理・施工	商空間の工事監理・施工に関する科目	建築材料	各2	
			建築施工		
【B 群】	B－1 図案表現	設計・製図・CAD・CG などにより、商業施設を構想し表現することに関する科目	製図実習	各2	4単位以上
			空間デザイン実習Ⅰ		
			空間デザイン実習Ⅱ		
			空間デザイン実習Ⅲ		
			インテリア・建築デザイン実習Ⅰ		
			インテリア・建築デザイン実習Ⅱ		
			インテリアデザイン実習		
			建築 CAD 実習Ⅰ		
			建築 CAD 実習Ⅱ		

８．司書教諭課程（居住空間デザイン学科）

学校図書館法で定められている「司書教諭」の資格を得ようとする者のために設置されている課程です。

司書教諭とは、学校図書館の管理、運営のすべてを行い、かつ、ホームルーム、国語、社会などの時間を利用して、児童、生徒に読書指導、図書館の利用方法、本の探し方などを教える先生のことです。この資格を得ようとするためには、「卒業に必要な単位」の他に、「教職課程（家庭科）に必要な科目」と併せて、下記の「司書教諭に関する科目」の単位を取得しなければなりません。司書教諭に関する科目だけ単位修得しても司書教諭になることはできません。

司書教諭に関する科目

学校図書館司書教諭講習規程の科目	本学授業科目	開講時期	単位数	配当年次	担当者
学校経営と学校図書館	学校経営と学校図書館	後期集中	2	２３４	徳永
学校図書館メディアの構成	学校図書館メディアの構成	前期集中	2	１２３４	植田
学習指導と学校図書館	学習指導と学校図書館	後期集中	2	１２３４	植田
読書と豊かな人間性	読書と豊かな人間性	前期集中	2	１２３４	徳永
情報メディアの活用	情報メディアの活用	後期集中	2	２３４	伊藤(剛)

※司書教諭に関する科目は、年間履修単位数の制限に含めない。また、卒業所要単位にも含めない。
※司書教諭に関する科目はGPAの対象外とする。
※授業の実施時期等については、後日掲示する。

資格申請の手続き及び時期

⑴　３年次終了時点で、司書教諭に関する科目の５科目10単位及び卒業要件科目の62単位以上を修得している場合

３年次の３月～ ４年次の４月	学生は「学校図書館司書教諭講習申込書」を教学支援課に提出する。
４年次の３月	修了証書は、４年次の12月から１月の日付で文部科学省から交付される予定。（大学に届くのは４年次の３月頃）

※司書教諭資格を卒業時に取得できる。

⑵　３年次終了時点で、司書教諭に関する科目の５科目10単位及び卒業要件科目の62単位以上を修得していない場合

４年次の２月～３月 （卒業式までに）	学生は「教育職員免許状授与証明書交付願」及び「学校図書館司書教諭講習申込書」を教学支援課に提出する。
卒業の翌年度３月頃	大学から申請学生に修了証書を郵送する。 修了証書は、卒業の翌年度の12月から１月の日付で文部科学省から交付される予定。 （大学に届くのは卒業の翌年度の３月頃）

※司書教諭資格を卒業時に取得できないので注意すること。

全学共通授業科目

この項には、全学共通授業科目（全学部に開講している科目）を履修するうえで、重要な事項についての説明や注意事項が記載されています。これらのことがらをよく理解しておいてください。

全学共通授業科目を修得した単位は、それぞれの定められた卒業に必要な単位に算入されます。

1．外国人留学生適用科目
2．海外短期語学研修科目
3．キャリア形成支援科目
4．特別講義・スポーツ関連科目

1．外国人留学生適用科目

科目コード	授業科目	配当年次	開講時期形態		単位数
			前→前期 後→後期	週あたり 授業回数	
ZX51	日本語理解（基礎）A	１２３４	前	週１回	1
ZX52	日本語理解（基礎）B	１２３４	後	週１回	1
ZX53	日本語理解（基礎）C	１２３４	前	週１回	1
ZX54	日本語理解（基礎）D	１２３４	後	週１回	1
ZX55	日本語理解（基礎）E	１２３４	前	週１回	1
ZX56	日本語理解（基礎）F	１２３４	後	週１回	1
ZX61	日本語理解（応用）A	１２３４	前	週１回	1
ZX62	日本語理解（応用）B	１２３４	後	週１回	1
ZX63	日本語理解（応用）C	１２３４	前	週１回	1
ZX64	日本語理解（応用）D	１２３４	後	週１回	1
ZX65	日本語理解（応用）E	１２３４	前	週１回	1
ZX66	日本語理解（応用）F	１２３４	後	週１回	1
ZX71	日本事情A	１２３４	前	週１回	2
ZX72	日本事情B	１２３４	後	週１回	2
ZX73	日本事情C	１２３４	前	週１回	2
ZX74	日本事情D	１２３４	後	週１回	2

※開講曜日時限によっては履修制限を行います。詳しくは学生生活課（国際交流）に問い合わせること。

単位換算の特別措置について

日本語理解（基礎）A	1単位
日本語理解（基礎）B	1単位
日本語理解（基礎）C	1単位
日本語理解（基礎）D	1単位
日本語理解（基礎）E	1単位
日本語理解（基礎）F	1単位
日本語理解（応用）A	1単位
日本語理解（応用）B	1単位
日本語理解（応用）C	1単位
日本語理解（応用）D	1単位
日本語理解（応用）E	1単位
日本語理解（応用）F	1単位

→ 2023・24年度生は８単位、2025・26年度生は４単位を限度として、外国語科目の最低必要単位数に算入

日本事情A	2単位
日本事情B	2単位
日本事情C	2単位
日本事情D	2単位

→ 教養科目の最低必要単位数に算入

２．海外短期語学研修科目

① 夏期又は春期休暇期間に実施される海外短期語学研修に参加して所定の成績を修めた場合、専門関連科目「海外文化演習」（２単位）の単位として、卒業に必要な単位に算入されます。
② 年間履修単位数の制限には含まれません。
③ 追試験、再試験の対象とはなりません。
④ 渡航期間中に実施される追試験・再試験は受験できません。
⑤ 春期語学研修は、３月卒業予定の学生の参加は可能ですが、履修登録は行わず、成績評価・単位認定も行いません。また、夏期の語学研修は、９月卒業予定の学生の参加は可能ですが、同様に、履修登録は行わず、成績評価・単位認定も行いません。
⑥ 海外短期語学研修の実施時期・行き先・費用等の詳細は学生生活課（国際交流）に問い合わせてください。

３．キャリア形成支援科目

⑴ インターンシップ・体験型就業力開発科目

科目コード	授業科目	配当年次	開講時期形態		単位数
			前→前期 後→後期	週あたり 授業回数	
ZI01	インターンシップⅠ【2023年度生】	２３４	前 ・ 後	週１回	2
ZI02	インターンシップⅡ【2023年度生】	３４	前	週１回	2
ZI04	体験型就業力開発Ⅰ【2024・25・26年度生】	２３４	前 ・ 後	週１回	2
ZI05	体験型就業力開発Ⅱ【2024・25・26年度生】	３４	前	週１回	2

① インターンシップ・体験型就業力開発は、学内での授業、講演会、各種企業での実務体験、体験報告会等を行うものです。
② 上記科目を修得した場合は、専門関連科目として卒業に必要な単位に算入されます。
③ 年間履修単位数に含まれます。
④ インターンシップⅠ・体験型就業力開発Ⅰの単位を修得しなければインターンシップⅡ・体験型就業力開発Ⅱを履修することはできません。
⑤ 詳細は掲示を見てください。

⑵ その他

科目コード	授業科目	配当年次	開講時期形態		単位数
			前→前期 後→後期	週あたり 授業回数	
ZI10	キャリアデザインⅠ	１２３４	後	週１回	2
ZI11	キャリアデザインⅡ	２３４	前	週１回	2
ZI12	キャリアデザインⅢ	３４ (2025・26年度生)	未定	週１回	2
ZF01	TF（Tezukayama Family）講座	１２３４	前 ・ 後	週１回	2

① 上記科目を修得した場合は「全学共通授業科目」として卒業に必要な単位に算入されます。
② 年間履修単位数に含まれます。
③ 上記科目はステップ制ではなく、ⅡまたはⅢからの履修も可能とします。（ただし、Ⅰから履修することが望ましい。）
④ 詳細は掲示を見てください。

４．特別講義・スポーツ関連科目

⑴　特別講義

科目コード	授業科目	配当年次	開講時期形態		単位数
			前→前期 後→後期	週あたり 授業回数	
ZY07	特別講義（大学・キャリアに役立つ文章表現Ａ）	１２３４	前	週１回	２
ZY08	特別講義（大学・キャリアに役立つ文章表現Ｂ）	１２３４	後	週１回	２
ZY16	特別講義（身近な知的財産と法）	１２３４	前	週１回	２
ZY17	特別講義（数理・データサイエンスＡ）	１２３４	前 又は 後	週１回	２
ZY18	特別講義（数理・データサイエンスＢ）	１２３４	前 又は 後	週１回	２
ZY19	特別講義（スポーツ医学）	１２３４	前	週１回	２
ZY20	特別講義（スポーツ栄養学）	１２３４	後	週１回	２
ZY21	特別講義（スポーツ心理学）	１２３４	前	週１回	２
ZY22	特別講義（スポーツ指導論）	１２３４	後	週１回	２
ZY23	特別講義（スポーツ社会学）	１２３４	後	週１回	２
ZY24	特別講義（スポーツマネジメント）	１２３４	前	週１回	２
ZY27	特別講義（データサイエンス初級）	２３４	前	週１回	２
ZY28	特別講義（キャリアデザインⅢ）	３４ (2024年度生以前)	後	週１回	２

⑵　スポーツ関連科目

科目コード	授業科目	配当年次	開講時期形態		単位数
			前→前期 後→後期	週あたり 授業回数	
ZC01	スポーツ科学Ａ	１２３４	前	週１回	１
ZC02	スポーツ科学Ｂ	１２３４	後	週１回	１
ZC03	スポーツ科学Ｃ	２３４	前	週１回	１
ZC04	スポーツ科学Ｄ	２３４	後	週１回	１

特別講義及びスポーツ関連科目の注意事項

① 上記科目を修得した場合は「全学共通授業科目」として卒業に必要な単位に算入されます。

② 上記科目は東生駒キャンパスで開講されます。

③ 年間履修単位数に含まれます。

④ 不明な点があれば、東生駒キャンパスの教学支援課（学部共通）（0742-48-9429）に問い合わせてください。

帝塚山大学
教学支援課（現代生活学部・教育学部）

学園前キャンパス
〒631-8585　奈良市学園南３丁目1-3
TEL　0742-41-4719　FAX　0742-41-4905
https://www.tezukayama-u.ac.jp/